

(様式 1)

令和 2 年度 業務実績等報告書

(第 3 期中期計画・第 1 事業年度)

令和 3 年 6 月



地域の明日を医療で支える

地方独立行政法人 **長野県立病院機構**

目 次

I 法人の概要

1 目 的	1
2 業務内容	1
3 沿 革	1
4 設立にかかる根拠法	1
5 組織図その他法人の概要	2
6 事業所の所在地	5
7 資本金の額（長野県からの出資額）	5
8 役員の氏名、役職及び任期	6
9 常勤職員の数及び県からの派遣職員等の数	7

II 業務実績及び業務実績に係る自己評価

1 法人全体	
1－1 総合評価	8
1－2 項目別評価	9
1－3 今後の方針と課題	20
2 病院等別	
2－1 信州医療センター	21
2－2 こころの医療センター駒ヶ根	25
2－3 阿南病院・阿南病院訪問看護ステーションさくら・阿南介護老人保健施設	31
2－4 木曽病院・木曽病院介護医療院・木曽介護老人保健施設	37
2－5 こども病院	43
2－6 信州木曽看護専門学校	48
2－7 本部事務局・本部研修センター	52
<参考> 数値目標に対する達成状況及び主な経営指標	56

地方独立行政法人長野県立病院機構 令和2年度業務実績等報告書

I 法人の概要（令和3年3月31日現在）

1 目 的

長野県の医療政策として必要な地域医療、高度医療及び専門医療を提供すること等により、県民の健康の維持及び増進並びに県内医療水準の向上に寄与する。（定款第1条）

2 業務内容

当法人は、定款第1条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 医療を提供すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 医療に関する研修を行うこと。
- (4) 医療に関する地域への支援を行うこと。
- (5) 災害等における医療救護を行うこと。
- (6) 地域医療を補完する介護老人保健施設の運営を行うこと。
- (7) 看護師養成所の運営を行うこと。
- (8) 上記の業務に附帯する業務を行うこと。

3 沿 革

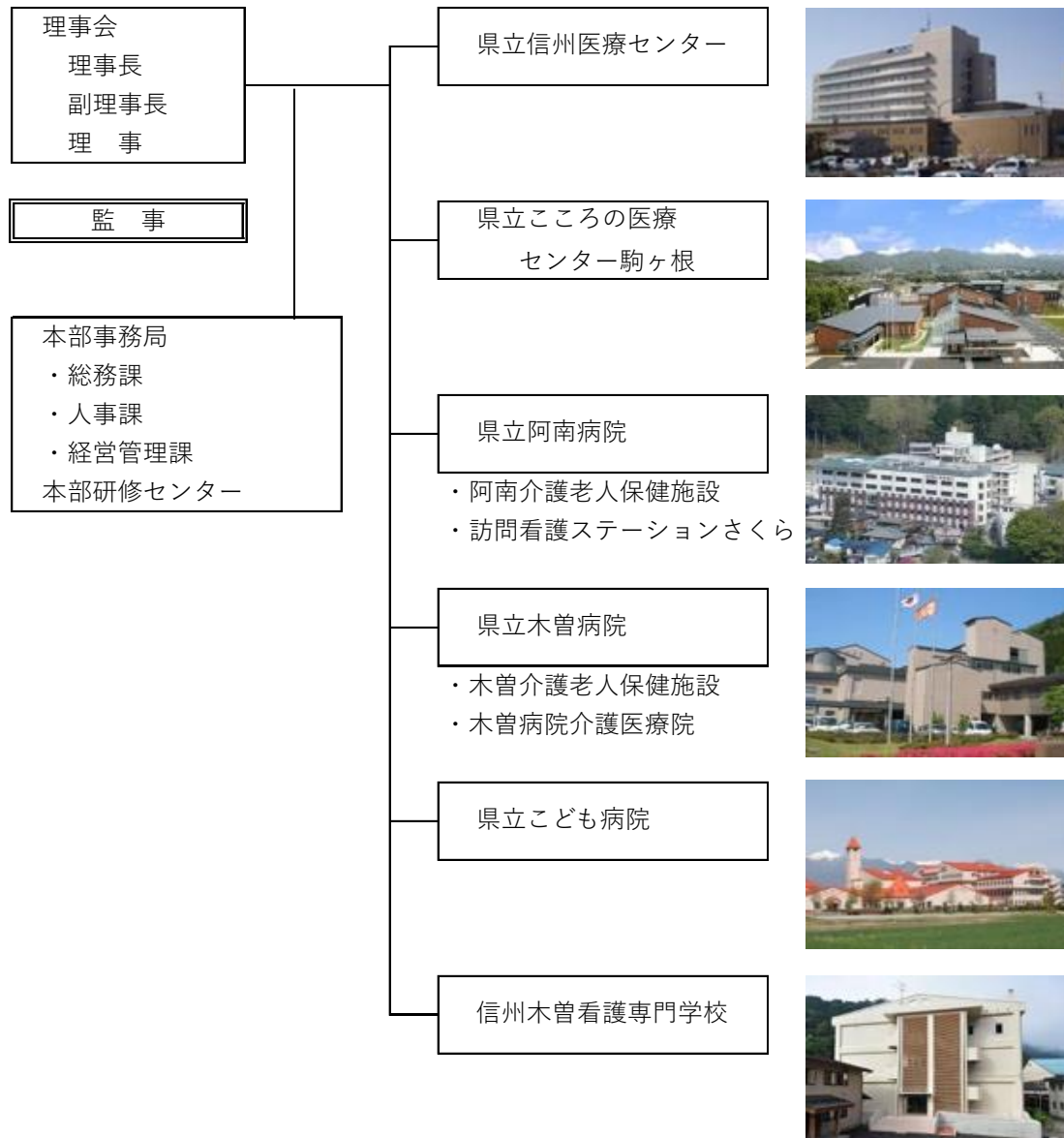
平成22年4月 地方独立行政法人長野県立病院機構発足
第一期中期計画開始
初代理事長 勝山 努 就任
平成25年4月 2代理事長 久保 恵嗣 就任
平成27年4月 第二期中期計画開始
令和2年4月 第三期中期計画開始

4 設立にかかる根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）

5 組織図その他法人の概要

〈地方独立行政法人長野県立病院機構組織図〉



区 分		信州医療 センター (一般)	こころの 医療センター 駒ヶ根 (精神)	阿南病院 (一般)	訪問看護ス テーション さくら	阿南 介護老人 保健施設	木曽病院 (一般)	木曽病院 介護医療 院	木曽 介護老人 保健施設	こども病院 (小児専門)
所 在 地		須坂市	駒ヶ根市	阿南町	同左	同左	木曽町	同左	同左	安曇野市
開設許可		S23.6.1	S31.7.16	S23.6.1			S38.9.12			H4.3.31
診療開始 年 月 日		同上	S31.9.15	同上	R 2.4.1	H6.5.30	S39.4.20	R 2.3.1	H7.5.15	H5.5.28
診療科目等		内科 脳神経内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 感染症内科 血液内科 小児科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 呼吸器外科 血管外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 放射線科 麻酔科 リハビリテーション 科 精神科 病理診断科 救急科	精神科	内科 精神科 小児科 外科 整形外科 皮膚科 泌尿器科 婦人科 眼科 リハビリテーション 科 放射線科 麻酔科		施設 サービス (入所) 居宅 サービス (短期入 所療養介 護・通所リ ハビリテーショ ン・介護予 防短期入 所療養介 護・介護 予防通所リ ハビリテーショ ン) 科 放射線科 麻酔科	内科 精神科 神経内科 消化器内科 循環器内科 小児科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 放射線科 麻酔科	施設 サービス (入所) 居宅 サービス (短期入 所療養介 護)	施設 サービス (入所) 居宅 サービス (短期入 所療養介 護・通所リ ハビリテーショ ン・介護予 防短期入 所療養介 護・介護 予防通所リ ハビリテーショ ン)	小児科 麻酔科 産科 循環器小児科 心臓血管外科 神経小児科 小児外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 放射線科 リハビリテーション科 精神科 眼科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 皮膚科 アレルギー科
病棟別 許可 病床 数	一 般	292 床		85 床		(定員)	176 床	(定員)	(定員)	200 床
	結 核	24 床				入所 50人		入所 20人	入所 50人	
	感染症	4 床				通所 10人	4 床		通所 10人	
	精 神		129 床							
	療 養						19 床			
	計	320 床	129 床	85 床			199 床			200 床
運用病床数		292 床	129 床	70 床			151 床			180 床
職 員 数	医 師	40 人	13 人	8 人			23 人			65 人
	研修医	9 人								28 人
	看護師	243 人	92 人	50 人	4 人	130 人	6 人	296 人		
	その他	105 人	45 人	37 人	13 人	92 人	18 人	95 人		
	計	397 人	150 人	95 人	17 人	245 人	24 人	484 人		

〈県立病院の概要〉

- ・ 信州医療センター：須高地域の中核病院、県内感染症対策の専門病院、医師の養成機関
- ・ こころの医療センター駒ヶ根：本県における精神科の中核病院
- ・ 阿南病院：下伊那南部の医療を担う、へき地医療拠点病院
- ・ 木曽病院：地域完結型のセンター的役割を担う木曽地域唯一の病院
- ・ こども病院：一般の医療機関では対応困難な高度小児医療等を行う紹介型病院、県の総合周産期母子医療センター

〈訪問看護事業所の概要〉

利用者が可能な限り、その居宅において、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、その療養生活を支援し、心身の機能の維持回復及び生活機能の維持または向上を図ることを目的に運営を行っている。

- ・ 名 称：長野県立阿南病院訪問看護ステーションさくら

〈介護医療院の概要〉

「医療を必要とする要介護者の長期療養・生活施設」として、看護師や介護福祉士が常駐し、医学的管理下で看護、介護、機能訓練や日常生活の世話等を行い、能力に応じた自立した日常生活を営むことを目的に運営を行っている。

- ・ 名 称：長野県立木曽病院介護医療院

〈介護老人保健施設の概要〉

平成12年度から介護保険法による介護老人保健施設となり、要介護者に対し施設サービス計画に基づく、ア 医学的管理下での看護・介護、イ 機能訓練等の必要な医療、ウ 栄養管理、食事・入浴などの日常生活のサービスを行うことを目的に運営を行っている。

入所対象者は、病状が安定期にあって、ア～ウのサービスを必要とする要介護者であり、施設では、在宅の生活への復帰を目指したサービスを提供している。

- ・ 名 称：長野県阿南介護老人保健施設、長野県木曽介護老人保健施設

〈看護師養成所の概要〉

人々の生命と暮らしのありのままを理解することのできる幅広い視野を育み、看護に必要な知識・技術・態度を身に付け、保健・医療・福祉の領域において貢献し得る看護実践者の育成を目的に運営を行っている。

- ・ 名 称：信州木曽看護専門学校
- ・ 課 程：医療専門課程 看護学科3年課程
- ・ 修業年限：3年
- ・ 入学定員：1学年30人（総定員90人）
- ・ 設置年月日：平成26年4月1日

6 事業所の所在地

【本部】

本部事務局 : 長野市大字南長野字幅下692- 2
本部研修センター : 須坂市大字須坂1332 信州医療センター内

【病院】

長野県立信州医療センター : 須坂市大字須坂1332
長野県立こころの医療センター駒ヶ根 : 駒ヶ根市下平2901
長野県立阿南病院 : 下伊那郡阿南町北條2009- 1
長野県立木曽病院 : 木曽郡木曽町福島6613- 4
長野県立こども病院 : 安曇野市豊科3100

【訪問看護事業所】

長野県立阿南病院訪問看護ステーションさくら : 下伊那郡阿南町北條2009-1

【介護医療院】

長野県立木曽病院介護医療院 : 木曽郡木曽町福島6613- 4

【介護老人保健施設】

長野県阿南介護老人保健施設 : 下伊那郡阿南町北條2009- 1
長野県木曽介護老人保健施設 : 木曽郡木曽町福島6613- 4

【看護師養成所】

信州木曽看護専門学校 : 木曽郡木曽町新開4236

7 資本金の額（長野県からの出資額）

305,621,763円（令和3年3月31日現在）※前事業年度末からの増減なし

8 役員の氏名、役職及び任期

職 名	氏 名	任 期	備 考
理事長	クボ ケイ シ 久 保 恵 嗣	平成30年4月1日 ～令和4年3月31日	
副理事長	シマ ダ ノブ ユキ 島 田 伸 之	令和2年9月1日 ～令和4年3月31日	
理 事	テラ ダ マサル 寺 田 克	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	信州医療センター院長
	ハニ ハラ トキ ジ 埴 原 秋 児	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	こころの医療センター駒ヶ根院長
	タ ナカ マサ ト 田 中 雅 人	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	阿南病院長
	ハマ ノ ヒデ アキ 濱 野 英 明	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	木曽病院長
	ナカ ムラ トモ ヒコ 中 村 友 彦	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	こども病院長
	ハラ ダ ヨリ カズ 原 田 順 和	平成31年4月1日 ～令和3年3月31日	改革統括医療監
	シマ ザキ ケン ジ 島 崎 謙 治	令和2年6月1日 ～令和4年5月31日	国際医療福祉大学大学院教授
	ワタ ナベ ヨウ コ 渡 辺 庸 子	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	医師
監 事	ヤナギサワ イサム 柳 沢 勇	平成30年4月1日 ～令和3年度の財務諸表の 承認の日	元 株式会社八十二銀行大阪支店長
	ヤマ ナカ タカシ 山 中 崇	平成30年4月1日 ～令和3年度の財務諸表の 承認の日	公認会計士、新日本有限責任監査法人 松本事務所 所長

9 常勤職員の数及び県からの派遣職員等の数

(人)

区 分	R 3 年3月31日		R2年 3 月31日		対前年度 増減(a-b)	
	職員数 a		職員数 b		職員数	
		うち県派遣		うち県派遣		うち県派遣
医 師	188	12	177	10	11	2
看 護 師	837		819		18	0
薬 剤 師	44	2	44	2	0	0
診 療 放 射 線 技 師	29		30		△ 1	0
臨 床 検 査 技 師	42		41		1	0
管 理 栄 養 士	16		15		1	0
作 業 療 法 士	21		20		1	0
理 学 療 法 士	47		46		1	0
臨 床 工 学 技 士	18		17		1	0
言 語 聴 覚 士	8		7		1	0
視 能 訓 練 士	5		5		0	0
保 健 師	1		1		0	0
臨 床 心 理 技 師	10		10		0	0
歯 科 衛 生 士	1		1		0	0
介 護 福 祉 員	30		30		0	0
精 神 保 健 福 祉 士	10		9		1	0
福 祉 相 談 員	12	1	12	1	0	0
事 務 (技 術) 職 員	136	19	120	20	16	△ 1
計	1,455	34	1,404	33	51	1

※ 有期雇用職員（再雇用職員、特定期限付職員、期間限定雇用職員（産育休職員の代替として雇用されている職員は除く）、有期常勤職員（研修医のみ））を含む。

II 業務実績及び業務実績に係る自己評価

1 法人全体

1 - 1 総合評価

自己評価 (S A B C)	A (年度計画を達成している)
自己評価の理由	・大項目第1から第4については、すべてA評価とした。 ・総合評価の自己評価は、総合的に判断し、A評価とした。 なお、年度計画に記載のない事項として、令和2年度に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症に対しては、県立病院すべてが感染者等の受入れを行うなど、積極的な感染症医療を提供した。 <新型コロナウイルス感染症への対応等に係る実績について> ・令和2年度は、全国的に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症への対応が最大の重点事項となったが、県立病院機構においては、県立5病院すべてが感染者等の受入れを積極的に行い、使命感を持って感染症医療を提供した。(詳細は別冊2に記載)

1-2 項目別評価

実績及び自己評価（S A B C）

中期計画	第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 病院機構は、患者中心の安全で安心な医療を提供するため、常に医療機関としての機能向上に努め、県民の健康の維持及び増進に寄与する。 また、医療機関を含め地域との連携を図るとともに、医療人材の養成を通して県内の医療水準の向上を図る。
------	---

大項目	第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A
-----	--	---

- ・小項目の自己評価は、小項目すべて A 評価とした。
- ・大項目の自己評価は、総合的に判断し、A 評価とした。

小項目	項目	1 県立病院が担うべき医療等の提供	A																																								
	【自己評価の理由】 ・小項目1の自己評価は、新型コロナウイルス感染症の影響により患者数が減少し、分娩件数等が目標を下回る結果となったが、県立病院がコロナ禍においても、県民が必要とする医療を確実に提供してきたことによる貢献度が高いと判断し、A 評価とした。 【在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ）】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th><th>実績</th><th>年度計画</th><th>対年度計画</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td><td>9,147 件</td><td>8,260 件</td><td>887 件</td></tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td><td>1,932 件</td><td>1,920 件</td><td>12 件</td></tr> <tr> <td>阿南病院</td><td>4,119 件</td><td>3,108 件</td><td>1,011 件</td></tr> <tr> <td>木曽病院</td><td>5,561 件</td><td>5,000 件</td><td>561 件</td></tr> <tr> <td>こども病院</td><td>54 件</td><td>180 件</td><td>△126 件</td></tr> </tbody> </table> ・在宅医療においては、信州医療センターは訪問リハビリの増加、阿南病院は訪問看護ステーションの開設により、木曽病院は7月に在宅療養支援病院となり24時間訪問看護の体制を整えたことなどから、実績が増加した。 【分娩件数】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th><th>実績</th><th>年度計画</th><th>対年度計画</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td><td>223 件</td><td>250 件</td><td>△27 件</td></tr> <tr> <td>木曽病院</td><td>72 件</td><td>108 件</td><td>△36 件</td></tr> <tr> <td>こども病院</td><td>292 件</td><td>300 件</td><td>△8 件</td></tr> </tbody> </table>			病院名	実績	年度計画	対年度計画	信州医療センター	9,147 件	8,260 件	887 件	こころの医療センター駒ヶ根	1,932 件	1,920 件	12 件	阿南病院	4,119 件	3,108 件	1,011 件	木曽病院	5,561 件	5,000 件	561 件	こども病院	54 件	180 件	△126 件	病院名	実績	年度計画	対年度計画	信州医療センター	223 件	250 件	△27 件	木曽病院	72 件	108 件	△36 件	こども病院	292 件	300 件	△8 件
病院名	実績	年度計画	対年度計画																																								
信州医療センター	9,147 件	8,260 件	887 件																																								
こころの医療センター駒ヶ根	1,932 件	1,920 件	12 件																																								
阿南病院	4,119 件	3,108 件	1,011 件																																								
木曽病院	5,561 件	5,000 件	561 件																																								
こども病院	54 件	180 件	△126 件																																								
病院名	実績	年度計画	対年度計画																																								
信州医療センター	223 件	250 件	△27 件																																								
木曽病院	72 件	108 件	△36 件																																								
こども病院	292 件	300 件	△8 件																																								

- ・概ね計画どおりの件数を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により里帰り出産が減少した木曽病院の減少率が特に大きかった。
- ・信州医療センターは、産後ケア（須坂モデル）を継続して実施し、地域において一貫した産科医療を提供した。

【へき地巡回診療件数】

病院名	実績	年度計画	対年度計画
阿南病院	76 回（1,039 人）	26 回（75 人）	50 回（964 人）
木曽病院	21 回（44 人）	24 回（48 人）	△3 回（△4 人）

- ・阿南病院は、4 月から無医地区となった天龍村への巡回診療を週 1 回実施したことにより、実績が増加した。
- ・木曽病院は、県から準地域医療人材拠点病院に指定され、みたび診療所に医師を派遣した。

【精神医療】

- ・こころの医療センター駒ヶ根は、7 月に県から「依存症専門医療機関」「依存症治療拠点機関」に指定され、薬物及びギャンブル等依存症の治療を行うとともに、ニーズが高まっているゲーム・ネット依存症の診療体制整備や児童・思春期、青年期の精神疾患医療機能充実のための「子どものこころ総合医療センター（仮称）」開設の準備を行った。

【高度小児医療・周産期医療】

- ・こども病院は、10 月にニューロケア（神経治療）センターを開設し、小児神経疾患に対する新規治療を行う体制を構築した。また、増加する小児アレルギー疾患の治療やあたまの形外来の実施など、患者のニーズに対応した医療の提供を行った。

【がん医療】

- ・木曽病院では、MSW の患者の早期介入により、がん相談診療センターの相談件数が増加した。また、地域がん診療病院の機能強化のため、令和 3 年 4 月に開設する歯科口腔外科の準備を進めた。
- ・こども病院は、諏訪マタニティークリニックと連携し、がん患者の妊孕性温存に係る卵巣組織等の凍結・保存を実施した。

【災害医療等の提供】

- ・こころの医療センター駒ヶ根は、1 月に県の要請を受け、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した東信地区の病院へ D P A T（災害派遣精神医療チーム）を派遣した。

【認知症の専門医療の提供】

- ・こころの医療センター駒ヶ根は、4 月に県から指定を受け、上伊那圏域におけ

る認知症疾患医療センターを開設し、専門医療相談等を開始した。				
【訪問看護ステーションの利用者数】				
病院名	実績	年度計画	対年度計画	
阿南病院	2,963 人	3,108 人	△145 人	
・阿南病院は、4 月に「訪問看護ステーションさくら」を開設し、下伊那南部地域の訪問看護の拠点としてスタートした。				
【介護医療院の利用者数】				
施設名	実績	計画	対計画	
木曽病院介護医療院	5,834 人	5,475 人	359 人	
・長期療養のための医療と日常生活上の介護を一体的に提供する施設として、令和 2 年 3 月に開設した木曽病院介護医療院は、広報実施の効果等により着実に利用者を受け入れた。				
項目	2 地域連携の推進			A
【自己評定の理由】				
・小項目 2 の自己評定は、年度計画にある事項を概ね実施し、個別項目においても A 評定が多かったことにより、A 評定とした。				
【地域包括ケアシステムの推進】				
・阿南病院は、4 月から一般病床を 70 床で運用を開始し、在宅復帰等を支援する地域包括ケア病床については、新型コロナウイルス感染者の受入れにより開設が遅れたものの、3 月から 16 床で運用を開始した。				
【紹介率及び逆紹介率】				
病院名	実績		年度計画	
	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率
信州医療センター	60.8%	17.6%	59.7%	16.5%
こころの医療センター駒ヶ根	52.5%	48.1%	52.0%	36.0%
阿南病院	31.2%	17.6%	21.5%	13.5%
木曽病院	20.1%	28.0%	26.0%	17.0%
こども病院	70.5%	80.6%	77.0%	73.9%
・各病院は、紹介、逆紹介を通じて地域の医療機関等との連携を推進した。				
【内視鏡検査件数】				
病院名	実績	年度目標	対年度計画	
信州医療センター	6,316 件	8,000 件	△1,684 件	

	・内視鏡検査件数については、新型コロナウイルス感染症に係る受診控えにより人間ドック件数が減少し、目標に達しなかった。 【地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進】 ・こころの医療センター駒ヶ根は、児童相談所等と連携し、児童虐待や自殺企図児童等、緊急性の高い入院に速やかに対応した。	
項目	3 医療従事者の養成と専門性の向上	A
	【自己評定の理由】 ・小項目3の自己評定は、年度計画にある事項を概ね実施し、個別項目においてもA評定が多かったことにより、A評定とした。 【県内医療に貢献する医師の確保・養成】 ・信州医療センターは、信州大学と協定を締結し、令和3年度からの総合内科医育成学講座（寄附講座）開設の準備を進めた。 ・本部研修センターは、医学生対象の県立病院機構病院説明会（長野県立5病院 joint セミナー）をWeb開催し、前年度比で参加者数が増加した。 【機構職員の養成】 ・信州医療センターは、特定行為を行う看護師を育成するため、指定研修機関として看護師の特定行為研修を10月に開講した。 ・本部研修センターは、新型コロナウイルス感染拡大に対応するため、各種職員研修をオンライン研修に変更して実施した。 【県内医療技術者の技術水準の向上への貢献】 ・本部研修センターは、貸出可能なシミュレータリストをホームページに掲載し、他医療機関の利便を図った。なお、シミュレータの貸出は、新型コロナウイルス感染症の影響により集合研修は減少したが、個人利用が増加した。スキルスラボの使用は、Web会議や研修での利用により増加した。 【信州木曽看護専門学校の運営】 ・令和2年度の卒業生は、国家試験合格率は100%に達しなかったが、就職者のうち95%が県内病院に就職し、地域の医療人材の育成に貢献した。	
項目	4 医療の質の向上に関すること	A
	【自己評定の理由】 ・小項目4の自己評定は、年度計画にある事項を概ね実施し、個別項目においてもA評定が多かったことにより、A評定とした。 【より安全で信頼できる医療の提供】 ・新型コロナウイルス感染症に対しては、各病院が研修や訓練を通じて徹底した	

	感染対策を行い、院内感染を未然に防いだ。 ・各病院は、引き続き医療安全点検等を実施し、医療事故を未然に防ぐ取組を実施した。 【医療等サービスの一層の向上】 ・各病院は、患者満足度調査の結果を参考とし、PDCA サイクルによるサービス向上に努めた。 ・こども病院は、慢性疾患の患者に対し教育・福祉関係者と連携した就学・就労支援を行い、社会参画や自立に向けた患者サービスを行った。 【先端技術の活用】 ・信州医療センター及び木曽病院においては、外来の一部診療科において AI 問診を導入し、患者の利便性向上及び診療の効率化を実現した。 ・こころの医療センター駒ヶ根は、電子カルテモバイル端末を信州医療センター及び木曽病院に配置し、新型コロナウイルス感染症疑い患者について、呼吸器専門医によるコンサルテーションを行った。 ・各病院においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応し、オンライン面会や電話診療などを実施し、患者の利便性向上に努めた。 【信州大学等との連携】 ・こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院は、信州大学との連携協定に基づく連携大学院教育の実施により医師等を養成した。	
--	---	--

中期計画	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 医療機関に適した業務運営体制の整備・効率化に努めるとともに、地方独立行政法人制度の強みを活かした柔軟性・自律性・迅速性のある病院経営を行う。
------	--

大項目	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A
・小項目の自己評価は、すべて A 評価とした。 ・大項目の自己評価は、総合的に判断し A 評価とした。		
小項目	項目 1 業務運営体制の強化	A
	【自己評価の理由】 ・小項目 1 の自己評価は、年度計画にある事項を概ね実施し、個別項目においても A 評価が多かったことにより、A 評価とした。 ・本部事務局は、機構独自の新しい人事評価制度について、「人事評価制度の基本方針（素案）」を作成し、職員向け説明会を開催する等試行的導入を行った。	

・木曽病院は、時間当り採算指標を用いた職員の経営参画を促す仕組み（京セラ式アメーバ経営）導入のため、部門ごとに面談を実施するなど、院内の仕組みの構築を進めた。 ・こども病院は、昨年度増加した超過勤務時間の削減に努め、休日代休取得等を推進し、看護部で36.3%の削減を実現した。		
項目	2 働き方改革への対応	A
【自己評定の理由】 ・小項目1の自己評定は、年度計画にある事項を概ね実施し、個別項目においてもA評定が多かったことにより、A評定とした。 ・各病院は、令和6年度から適用される医師の時間外労働の上限規制への対応に向け、業務の見直しや医師事務作業補助者の増員等によるタスク・シフト等を推進した。 ・信州医療センターは、看護職員のユニフォーム2色制（日勤帯は白、夜勤帯は緑）の導入により、職員の定時退勤や超過勤務の削減に効果があった。		
項目	3 職員の勤務環境の向上	A
【自己評定の理由】 ・小項目1の自己評定は、年度計画にある事項を概ね実施し、個別項目においてもA評定が多かったことにより、A評定とした。 ・各病院では、業務の見直しや年休取得を推進した。 ・本部事務局では、有期雇用職員の社会保険料算定基礎届の電子申告や源泉徴収票の電子化など、給与事務の効率化を図った。 ・こども病院は、新型コロナウイルス感染症に係る職員の心のケア充実のため、精神科医及びリエゾン精神看護師が感染症チームの会議に参加するなどした結果、「こころの相談室」の相談が増加した。		

中期計画	第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画 病院機構は、県立病院として求められる公的使命を確実に果たすため、業務運営の改善及び効率化に取り組むとともに、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）に基づき、県からの運営費負担金を確保する。
------	--

大項目	第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	A
・小項目の自己評定は、すべてA評定とした。 ・大項目の自己評定は、総合的に判断しA評定とした。		

小
項
目

項目	1 経常黒字の維持	A																																																						
【自己評定の理由】 ・小項目1の自己評定は、経常収支比率が目標の100%以上を達成したことの重要度が高いと判断し、A 評定とした。 【経常収支比率】 <table><tr><td>病院名</td><td>令和2年度実績</td><td>令和2年度目標</td></tr><tr><td>病院機構全体</td><td>103.8%</td><td>100.3%</td></tr></table> ・経常収支比率は目標の100%以上を達成した。 【損益計算書（機構全体）】（単位：百万円） <table><tr><td>科目</td><td>令和2年度</td><td>令和2年度計画</td><td>年度目標との差</td></tr><tr><td>経常収益</td><td>25,421</td><td>24,525</td><td>896</td></tr><tr><td>経常費用</td><td>24,501</td><td>24,458</td><td>43</td></tr><tr><td>経常損益</td><td>920</td><td>67</td><td>853</td></tr><tr><td>臨時損益</td><td>△11</td><td>0</td><td>△11</td></tr><tr><td>純損益</td><td>909</td><td>67</td><td>842</td></tr></table> ※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、入院患者は5病院すべてで計画を下回り、外来患者はこころの医療センター駒ヶ根を除いて計画を下回ったが、新型コロナウイルス感染症に係る病床確保を行い、感染症医療を積極的に実施したことに伴い約16億円の病床確保料等収入があり、機構全体の決算は約9億900万円の純利益となった。 【医業収支比率】 <table><tr><td>病院名</td><td>実績</td><td>年度計画</td><td>対年度計画</td></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>83.6%</td><td>85.8%</td><td>△2.2%</td></tr><tr><td>こころの医療センター駒ヶ根</td><td>63.8%</td><td>62.1%</td><td>1.7%</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td>53.2%</td><td>51.2%</td><td>2.0%</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>75.5%</td><td>77.3%</td><td>△1.8%</td></tr><tr><td>こども病院</td><td>76.1%</td><td>77.1%</td><td>△1.0%</td></tr></table> ・各病院にて若干の増減はあったが、概ね計画値どおりであった。		病院名	令和2年度実績	令和2年度目標	病院機構全体	103.8%	100.3%	科目	令和2年度	令和2年度計画	年度目標との差	経常収益	25,421	24,525	896	経常費用	24,501	24,458	43	経常損益	920	67	853	臨時損益	△11	0	△11	純損益	909	67	842	病院名	実績	年度計画	対年度計画	信州医療センター	83.6%	85.8%	△2.2%	こころの医療センター駒ヶ根	63.8%	62.1%	1.7%	阿南病院	53.2%	51.2%	2.0%	木曽病院	75.5%	77.3%	△1.8%	こども病院	76.1%	77.1%	△1.0%	
病院名	令和2年度実績	令和2年度目標																																																						
病院機構全体	103.8%	100.3%																																																						
科目	令和2年度	令和2年度計画	年度目標との差																																																					
経常収益	25,421	24,525	896																																																					
経常費用	24,501	24,458	43																																																					
経常損益	920	67	853																																																					
臨時損益	△11	0	△11																																																					
純損益	909	67	842																																																					
病院名	実績	年度計画	対年度計画																																																					
信州医療センター	83.6%	85.8%	△2.2%																																																					
こころの医療センター駒ヶ根	63.8%	62.1%	1.7%																																																					
阿南病院	53.2%	51.2%	2.0%																																																					
木曽病院	75.5%	77.3%	△1.8%																																																					
こども病院	76.1%	77.1%	△1.0%																																																					
項目	2 経営基盤の強化	A																																																						
【自己評定の理由】 ・小項目2の自己評定は、新型コロナウイルス感染症の影響により、患者数や病床利用率等が計画を下回る結果であったが、各病院等では、年度計画にある収益確保及び費用削減の取組を実施したことから、A 評定とした。																																																								

【延患者数】

病院名	実績		年度計画	
	入院	外来	入院	外来
信州医療センター	76,307 人	111,308 人	90,432 人	117,462 人
こころの医療センター駒ヶ根	34,779 人	39,037 人	38,228 人	37,510 人
阿南病院	14,680 人	47,565 人	15,980 人	48,080 人
木曽病院	40,782 人	109,849 人	47,473 人	124,233 人
こども病院	49,519 人	64,261 人	54,573 人	69,638 人

- ・入院患者については、新型コロナウイルス感染者受入れのための病床確保を行ったことなどにより、すべての病院で計画を下回った。
- ・外来患者については、ほとんどの病院で新型コロナウイルス感染症の影響による受診控え等のため計画を下回った。デイケアが増加したこころの医療センター駒ヶ根は、計画を上回った。

【1人1日当たり診療単価】

病院名	実績		年度計画	
	入院	外来	入院	外来
信州医療センター	49,596 円	16,096 円	42,964 円	17,300 円
こころの医療センター駒ヶ根	28,258 円	7,029 円	27,260 円	6,750 円
阿南病院	29,671 円	8,972 円	31,613 円	8,125 円
木曽病院	36,326 円	11,664 円	35,272 円	11,500 円
こども病院	105,847 円	13,081 円	101,000 円	13,230 円

- ・入院単価について、信州医療センター及びこども病院は高額な診療材料・医薬品等の使用増により、こころの医療センター駒ヶ根は単価の高い児童精神科病棟の使用増により、木曽病院は新規加算等の算定増により、それぞれ計画を上回った。

阿南病院は、単価増を予定していた地域包括ケア病床の開設が、新型コロナウイルス感染症者の受入れのため遅れたことにより、計画を下回った。

- ・外来単価について、こころの医療センター駒ヶ根はデイケア利用者の増により、木曽病院は在宅療養支援病院の基準を満たしたことによる算定増等により、阿南病院は訪問介護ステーションの開所等により、計画を上回った。

信州医療センター及びこども病院は、救急搬送患者の減少等により計画を下回った。

【平均在院日数】

病院名	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	13.8 日	14.8 日	△1.0 日
こころの医療センター駒ヶ根	67.5 日	71.7 日	△4.2 日
阿南病院	18.3 日	20.9 日	△2.6 日
木曽病院	15.9 日	16.5 日	△0.6 日
こども病院	12.8 日	14.1 日	△1.3 日

- ・新型コロナウイルス感染者受入れのためのベッドコントロール等により、すべての病院で減少し、目標を達することができた。

【病床利用率】

病院名	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	68.7%	82.0%	△13.3%
こころの医療センター駒ヶ根	72.8%	80.0%	△ 7.2%
阿南病院	54.3%	70.0%	△15.7%
木曽病院	61.2%	74.0%	△12.8%
こども病院	69.2%	76.8%	△ 7.6%

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う入院患者の減少に伴い、すべての病院で目標を達成できなかった。

【医療材料費／医業収益比率】

病院名	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	28.9%	25.6%	3.3%
こころの医療センター駒ヶ根	6.4%	6.1%	0.3%
阿南病院	16.4%	16.3%	0.1%
木曽病院	22.9%	22.4%	0.5%
こども病院	23.4%	20.9%	2.5%

- ・患者数の減少により、すべての病院で医業収益が計画を下回り、また感染対策等のため材料費が圧縮できなかったことから、目標達成ができなかった。

【ジェネリック医薬品使用割合】

病院名	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	90.5%	90.0%	0.5%
こころの医療センター駒ヶ根	90.1%	85.0%	5.1%
阿南病院	86.0%	88.0%	△2.0%
木曽病院	84.9%	85.0%	△0.1%
こども病院	89.5%	85.0%	4.5%

	・ジェネリック医薬品への切替えを進めた結果、概ね目標を達成した。 【収益の確保に係る取組】 ・阿南病院は、収益確保を目指すことを院内で認識するため、「めざせ50 合わせ70」のキャッチフレーズのもと、取組を推進した。 ・こども病院は、PICU 病棟の運用変更による小児入院医療管理料1や薬剤管理指導料、病棟業務実施加算の算定増加などにより、収益増を実現した。 【費用の抑制に係る取組】 ・下半期の医薬品費について、各病院と本部事務局が連携した価格交渉の結果、約3,600万円の費用削減を実現した。 ・機構全体の電気供給契約の見直しにより、約2,100万円の費用削減が実現した。	
--	--	--

中期計画	第8 その他業務運営に関する事項	
	1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理 各種研修会等の開催により、法人内のコンプライアンスの強化を図るとともに、内部統制委員会及びリスク管理委員会の活動を通じて内部統制等の評価・検証を行い適切な業務運営を行う。 また、長野県個人情報保護条例や長野県情報公開条例等に基づき、保有する個人情報の適切な情報管理と情報セキュリティ対策を講じるとともに、定期的な研修会等により、職員の理解を深める。	
	2 施設整備及び医療機器に関する事項 地域の医療需要や費用対効果等を総合的に勘案し、中長期的な視野に立って、施設及び医療機器の整備を計画的に実施する。 また、相当の年数が経過した施設については、長寿命化を図るために必要な大規模改修を、県と連携して進める。	

大項目		第4 その他の業務運営に関する事項	A
・小項目の自己評価は、すべてA評価とした。 ・大項目の自己評価は、総合的に判断し、A評価とした。			
小項目	項目	1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理	A
	【自己評価の理由】 ・小項目1の自己評価は、年度計画にある事項を概ね実施し、個別項目においてもA評価が多かったことにより、A評価とした。		

	・機構全体のコンプライアンス強化のため、強化月間の実施や研修等を行った。 ・内部統制を阻害するリスクに対応するため、内部統制委員会及びリスク管理委員会におけるリスクの特定と評価を実施した。 ・情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修会を実施した。							
項目	2 施設整備及び医療機器に関する事項	A						
【自己評定の理由】 ・小項目2の自己評定は、年度計画にある事項を概ね実施し、個別項目においてもA評定が多かったことにより、A評定とした。 【施設及び設備の整備に関する計画】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th><th>実績</th><th>年度計画</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院機構全体</td><td>総額 1,525 百万円</td><td>総額 2,424 百万円</td></tr> </tbody> </table> ・医療機器の購入については、医療器械等審査部会の開催などにより必要性や費用の圧縮等を含め検討し、適正な購入に努めた。また、新型コロナウイルス感染症に係る機器については、補助金の活用を推進し、費用を削減した。 ・施設改修等については、新型コロナウイルス感染症への対応のため、翌年度に予定を延期したものがあり、執行額が減少した。		病院名	実績	年度計画	病院機構全体	総額 1,525 百万円	総額 2,424 百万円	
病院名	実績	年度計画						
病院機構全体	総額 1,525 百万円	総額 2,424 百万円						

大項目	年度計画に記載のない事項	—																					
項目	新型コロナウイルス感染症への対応等に係る実績	—																					
小項目	【新型コロナウイルス感染症感染者等受入数】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th><th>感染者受入数</th><th>疑い患者受入数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td><td>195 人 (延べ 2,181 人)</td><td>21 人 (延べ 48 人)</td></tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td><td>—</td><td>15 人 (延べ 71 人)</td></tr> <tr> <td>阿南病院</td><td>56 人 (延べ 368 人)</td><td>—</td></tr> <tr> <td>木曽病院</td><td>33 人 (延べ 327 人)</td><td>5 人 (延べ 18 人)</td></tr> <tr> <td>こども病院</td><td>—</td><td>23 人 (延べ 36 人)</td></tr> <tr> <td>計</td><td>284 人 (延べ 2,876 人)</td><td>64 人 (延べ 173 人)</td></tr> </tbody> </table> ・感染が拡大した新型コロナウイルス感染症に対し、本県の感染症医療の中核病院である信州医療センターを中心に、県立5病院すべてが他地域や外国人患者を含めた感染者等の積極的受入れを行った。また、感染防止対策を徹底し、院内感染の発生を防いだ。	病院名	感染者受入数	疑い患者受入数	信州医療センター	195 人 (延べ 2,181 人)	21 人 (延べ 48 人)	こころの医療センター駒ヶ根	—	15 人 (延べ 71 人)	阿南病院	56 人 (延べ 368 人)	—	木曽病院	33 人 (延べ 327 人)	5 人 (延べ 18 人)	こども病院	—	23 人 (延べ 36 人)	計	284 人 (延べ 2,876 人)	64 人 (延べ 173 人)	
病院名	感染者受入数	疑い患者受入数																					
信州医療センター	195 人 (延べ 2,181 人)	21 人 (延べ 48 人)																					
こころの医療センター駒ヶ根	—	15 人 (延べ 71 人)																					
阿南病院	56 人 (延べ 368 人)	—																					
木曽病院	33 人 (延べ 327 人)	5 人 (延べ 18 人)																					
こども病院	—	23 人 (延べ 36 人)																					
計	284 人 (延べ 2,876 人)	64 人 (延べ 173 人)																					

1 - 3 今後の課題と方針

課 題	今後の方針
○医師の働き方改革に向けた対応	○令和 6 年度から適用される医師に対する時間外労働の上限規制に対応するため、これまでの労働時間の適正管理や年休取得の促進などの取組に加え、病院単位での医師労働時間短縮計画の策定（タスクシフト／シェアの推進を含む。）などを通して体制整備を進めていく。
○「子どものこころ総合医療センター（仮称）」の開設	○こころの医療センター駒ヶ根に令和 6 年度開設予定の「子どものこころ総合医療センター（仮称）」について、児童・思春期精神疾患の増加や、摂食障がい、ゲーム・ネット依存など変化する医療ニーズに適切に対応するため、学識者、児童支援者、相談機関等関係者の意見を踏まえ、建設に向けた検討を進めていく。
○老朽化している施設の建替え又は大規模改修等に係る検討	○建築後 30 年程度を経過する木曽病院及びこども病院の建替え又は大規模改修等について、長期資金計画とスケジュール等の検討を開始する。

2 病院等別

2-1 信州医療センター

【理 念】

私たちは患者中心のチーム医療を実践し、信頼される病院を目指します。

【基本方針】

- 1 人と人とのつながりを大切にし、心が満たされる医療を提供します。
- 2 医療の質の向上を図り安全な医療を行います。
- 3 医療・保健・福祉との結びつきを強化し、地域住民の健康増進に寄与します。
- 4 地域医療を担う優れた人材を育成します。
- 5 感染症医療の拠点病院として、先端医療を提供します。
- 6 病院機能の維持発展のため、健全な経営を行います。

2-1-1 総合評価

【成 果】

ア 産科医療の提供

産後の母親を支援する産後ケア「須坂モデル」の実施により、産科医療を充実

区 分		実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
分娩件数		223件	250件	△27件	230件	△7件
産後 ケア	宿泊型	52人	-人	-人	42人	10人
	デイサービス型	7人	-人	-人	2人	5人

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、日本産婦人科三学会から「帰省分娩と分娩付き添いを推奨しない」との見解が発出され（2020.4.7）、条件付きでの里帰り分娩の受入れとなったため、当院でも里帰り出産を制限した。

イ 在宅医療の提供

訪問リハビリの強化により、高齢者のフレイル防止に寄与

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問診療	238件	260件	△22件	259件	△21件
訪問看護	4,430件	4,500件	△70件	4,240件	190件
訪問リハ	4,479件	3,500件	979件	4,330件	149件
計	9,147件	8,260件	887件	8,829件	318件

ウ 感染症医療の提供

・感染症医療の中核病院として、新型コロナウイルス感染者の積極的受入れ等、感染症拡大に対応

項 目	受入人数	入院日数（延べ）	入院日数（平均）
感染者受入数	195 人	2,181 日	9.7 日

疑い患者受入数	21 人	48 日	3.0 日
計	216 人	2,229 日	－

※長野圏域外からの受入割合 23.1%、長野市からの受入割合 46.3%、外国人の受入人数 43 人

【検査件数】

検査種類	検査件数	検査開始日
院内PCR検査	341 件	令和2年7月1日
抗原定性検査	1,074 件	令和2年7月1日
抗原定量検査	206 件	令和3年2月2日
計	1,621 件	

エ 内視鏡センターの運営

近隣市町村及び医療関係機関との連携により検査を実施

なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴う受診控えのため、検査件数は伸びなかった。

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
内視鏡検査 件数	6,316件	8,000件	△1,684件	6,334件	△18件

オ 医療従事者の養成と専門性の向上

総合内科医の養成及び特定行為ができる看護師の育成により、県の医療水準向上に寄与

総合内科医の養成	令和3年3月29日	総合内科医の養成のため、信州大学との寄附講座の設置に関する協定に調印
	令和3年度	4月1日 開所式 育成プログラム作成
	令和4年度～	専攻医の募集と研修実施
特定行為に係る看護師の育成	令和2年10月6日	看護師特定行為研修を開講(受講生5人)

カ 医療の質の向上

A I 問診の導入(総合診療科外来)により、患者満足度の向上と業務効率化を実現

【効果】

- ・初診カルテ記載の負担及び予備問診時間の軽減
- ・患者との対面時間の増加、診療待ち時間の短縮により患者満足度の向上
- ・医師・看護師の業務効率化

キ 働き方改革への対応

看護職員ユニフォーム2色制の導入により、業務の利便性を向上

【効果】

- ・見た目の区分による利便性の向上
- ・時間管理意識の向上

ク 経営基盤の強化に係る取組

ベンチマークシステムの活用及び経営改善策を策定

ベンチマークシステムの活用	・診療材料費削減に努めたが、手術材料費、新型コロナウイルス感染対策の材料費が増加
「収益増加・費用削減に関するプロジェクトチーム」の立ち上げと取り組み	・各部署から様々な提案をとりまとめた「信州医療センター版SDGs」を策定

2-1-2 経営指標等

【経営指標】

信州医療センター 令和2年度実績

項目	区 分	実 績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入 院	76,307人	90,432人	84.4%	88,977人	85.8%
	外 来	111,308人	117,462人	94.8%	120,749人	92.2%
新患者数	入 院	4,299人	—	—	4,574人	94.0%
	外 来	17,373人	—	—	21,787人	79.7%
1人1日 当 たり 診療単価	入 院	49,596円	42,964円	115.4%	43,532円	113.9%
	外 来	16,096円	17,300円	93.0%	14,887円	108.1%
医業収益	入 院	3,784,557 千円	3,885,290 千円	97.4%	3,873,354 千円	97.7%
	外 来	1,791,563 千円	2,032,090 千円	88.2%	1,797,622 千円	99.7%
	合 計	5,576,120 千円	5,917,380 千円	94.2%	5,670,976 千円	98.3%
平均在院日数		13.8日	14.8日	—	15.4日	—
病床利用率		68.7%	82.0%	—	79.9%	—
コメント	◆入院 ・入院患者数は、対前年比で一般病棟86.7%、地域包括ケア病棟98.0%、結核病棟（新型コロナウイルス感染症受入病棟として転用）36.3%。科別では、手術件数が増加した整形外科が101.2%、常勤医師の体制が通年化した泌尿器科が185.0%と一部診療科で患者が増加したが、紹介患者数及び救急患者数の減少に伴って新入院患者数が減少（94.0%）し、ほぼ全ての診療科で対前年度比大幅減。 ・入院収益は、診療単価が整形外科手術の増加、平均在院日数（一般病床）の短縮、新型コロナウイルス感染症患者の受入病棟で中等症患者の受入れが増加したこと等によって上昇したものの、患者数の大幅な減少により対前年比97.7%、計画比97.4%。分娩件数は223件となり対前年で7件減。 ◆外来 ・外来患者数の科別状況は、常勤医師の体制が通年化した泌尿器科で107.6%、産婦人科102.5%と一部診療科で増加したが、新型コロナウイルス感染症流行に伴					

	う受診行動抑制が影響し、救急科が58.3%となるなど大半の診療科で減少。 ・外来収益は、外来化学療法や血液内科の高額薬剤治療の増加等により、診療単価が上がったが、患者減少により対前年比で99.7%、計画比で88.2%と減少。
--	--

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
紹介率	60.8%	59.7%	+1.1ポイント	66.2%	△5.4ポイント
逆紹介率	17.6%	16.5%	+1.1ポイント	13.0%	+4.6ポイント
コメント	◆紹介率 ・新型コロナウイルス感染症患者受入れ医療機関という理由により、当院を受診したがない患者の増や受診控えなどもあったが、目標を上回ることができた。 ◆逆紹介率 ・地道な働きかけを継続し、医師の協力を得て目標値を上回ることができた。				

【損益計算書】

信州医療センター

(税抜、単位：千円)

科目	R2 年度 決算 a	R2 年度 計画 b	対計画 増減 a-b	R 元年度 決算 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	7,732,687	7,368,062	364,625	7,178,692	553,995
医業収益	5,838,203	6,167,550	△ 329,347	5,928,841	△ 90,638
運営費負担金収益	1,052,304	1,093,572	△41,268	1,104,452	△ 52,148
その他経常収益	842,180	106,940	735,240	145,399	696,781
経常費用 (イ)	7,351,703	7,215,725	135,978	7,167,894	183,808
医業費用	6,980,184	6,854,007	126,177	6,814,094	166,089
給与費	3,692,270	3,618,677	73,593	3,553,407	138,863
材料費	1,749,439	1,649,522	99,917	1,690,477	58,962
減価償却費等	545,058	558,633	△ 13,575	537,302	7,756
経費	983,348	1,010,396	△ 27,048	1,019,080	△ 35,732
研究研修費	10,069	16,779	△ 6,710	13,829	△ 3,760
財務費用	102,567	109,204	△ 6,637	110,214	△ 7,647
その他経常費用	268,952	252,514	16,438	243,586	25,366
経常損益 (ア-イ)	380,984	152,337	228,648	10,797	370,187
臨時損益 (ウ)	△ 1,499	0	△ 1,499	△ 2,088	589
当期純損益 (ア-イ+ウ)	379,485	152,337	227,148	8,709	370,776
コメント	◆経常収益 ・患者数減少に伴い入院及び外来収益は減少し、大きく医業収益減となった。 ◆経常費用 ・職員増による給与費の増加、手術材料及び感染対策用の物品の需要増により材料費が増加した。 ・最終損益は病床確保料を含めた新型コロナ関連の補助金が計上され、経常損益は大幅に改善された。				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-2 こころの医療センター駒ヶ根

【理 念】

- 1 私たちは、患者さんの人権を尊重し、信頼される医療サービスを提供します。
- 2 私たちは、長野県の精神科医療の中核病院として、質の高い専門医療を提供します。
- 3 私たちは、医療安全を推進し、人にやさしい病院を目指します。

【基本方針】

- 1 患者さん一人ひとりと向き合い、権利の尊重と個別性への配慮に努めます。
- 2 救急・急性期を始めとする地域のニーズに応えるとともに、長野県の精神科医療の中核を担います。
- 3 良質で安全な精神科医療を提供すべく、専門的知識の習得と医療技術の向上に努めます。
- 4 多職種チーム医療を実践します。
- 5 保健・医療・福祉・教育機関と連携して、患者さんの地域生活を支援します。
- 6 精神科医療を担う人材育成と医療の質の向上のための研究・研修に取り組みます。

2-2-1 総合評価

【成 果】

ア 第3期中期計画の主要事業の実施状況

- ・児童・思春期、青年期の子どもに関する課題への対応を図るため、令和6年度開設予定の「子どものこころ総合医療センター（仮称）」について、専門病棟、小規模デイケアの新設と人材育成に向けた検討を開始
- ・令和3年度のm-E C T治療のセンター化に向け、施設改修を開始
- ・薬物及びギャンブル依存に係る「依存症専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関」に選定

イ 精神科救急医療の提供

- ・24時間365日対応により措置入院患者等を受入れ

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
措置入院患者数	20人	—	—	26人	△6人

- ・ウォークイン救急患者（外来救急患者）への速やかで適切な入院治療を提供

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
ウォークイン 救急患者数	80人	—	—	105人	△25人
内入院	47人	—	—	56人	△9人
入院割合	58.8%	—	—	53.3%	5.5ポイント

新型コロナ感染拡大のため、ウォークイン救急患者数が減少したことにより入院患者数も減少

- ・専門医療の提供

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
クロザピン（治療抵	9人	—	—	6人	3人

抗性統合失調薬)の 投薬実人数					
m-ECT(修正型電 気痙攣療法)治療実 施件数	243 件	—	—	271 件	△28 件

m-ECT 治療実施件数は、新型コロナ感染拡大による入院患者数の減少に伴い減少

・栄養サポートチーム(NST)による多職種チーム回診を実施

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
NST による 多職種チーム 新規回診件数	75 件 (延べ 681 件)	—	—	69 件 (延べ 500 件)	6 件 (181 件)

令和2年度に精神科では取組みの少ない NST 稼働施設の認定を受けた。

ウ 児童・思春期精神医療の提供

- ・子どものこころ診療センターにおいて、多角的な視点のもと早期に治療方針を決定するため多職種チームによる初診診療を実施
- ・発達障害特性のある子どもに対し、親が適切な関わり方を学び二次障害を防止するためペアレントトレーニングを実施

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
初診診療件数	143 件	—	—	127 件	16 件
家族支援のた めのペアレン トトレーニング 実施件数	10 件	—	—	6 件	4 件

エ 依存症医療の提供

ゲーム・ネット依存症患者に対し、専門チームにより当院独自の治療プログラムの開発を検討するとともに緊急避難的・試行的な入院治療を開始(県内初)

オ 認知症専門医療の提供

認知症疾患医療センターにおける専門医療相談等を開始(令和2年4月1日指定)

区 分		実 績
専門医療 相談	電話	958 件
	面接	607 件
もの忘れ外来件数		1,981 件
(内鑑別診断)		(91 件)

カ 精神科訪問看護の実施

初回入院患者の退院後毎週訪問(1か月間)等の実施により3か月以内再入院を抑制

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問看護件数	1,932 件	1,920 件	12 件	1,982 件	△50 件
再入院率（※）	16.4%	—	—	13.6%	2.8ポイント

※全国自治体病院協議会の医療の質の評価公表では、令和2年4月から12月の全国平均は18.8%であり、全国平均以下を維持している。

キ 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進

児童相談所・要保護児童対策地域協議会等と連携し児童虐待や自殺企図児童などの緊急入院に対応

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
新規入院患者数	53 人	—	—	54 人	△1 人
うち緊急・優先入院	3 人	—	—	4 人	△1 人
うち成人病棟への入院	24 人	—	—	14 人	10 人

児童病棟の満床により、成人病棟への緊急避難的な入院が増加

ク 災害医療等の提供

新型コロナウイルス感染症クラスターが発生した1医療機関へDPATを派遣

区 分	派遣先	延べ日数
DPAT 派遣	東信地域	12 日

ケ 医療従事者の養成と専門性の向上

初期研修医制度の精神科必須化に伴い研修医を受入れ

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
初期研修医	2 人	—	—	0 人	2 人

コ 信州大学との連携

連携大学院教育による勤務医の博士号取得に係る臨床研究を実施

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
連携大学院生年度末在籍数	2 人	—	—	2 人	—

サ 先端技術の活用

院内のインターネット環境を再整備し、オンライン面会を開始（令和2年8月）

区 分	実 績
オンライン面会実施件数	200 件

児童精神科病棟の需要が特に高く、142件の面会を実施（全体の約7割）

シ 働き方改革

- ・病院独自の「働き方改革宣言」を行い、方針の明確化と目標を設定
- ・職員の理解を深めるためのリーフレットを作成

ス 職員の勤務環境の向上

有期雇用職員の勤務時間管理の徹底により超過勤務時間を削減

区 分	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
年間総超過勤務時間	190 時間 38 分	—	—	233 時間 21 分	△42 時間 43 分

セ 新型コロナウイルス感染症への対応

精神疾患があり、かつ感染の疑いがある患者を受入れ

・感染者等受入数

項 目	受入人数	入院日数（延べ）	入院日数（平均）
疑い患者受入数	15 人	71 日	4.7 日

・検査件数

検査種類	検査件数	開始日
P C R 検査	8 件	保健所・他院対応
抗原定性検査	9 件	令和 2 年 6 月 12 日
計	17 件	

2-2-2 経営指標等

【経営指標】

こころの医療センター駒ヶ根

項 目	区 分	実 績	年度目標	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入 院	34,779人	38,228人	91.0 %	37,400人	93.0%
	外 来	39,037人	37,510人	104.1%	41,189人	94.8%
新患者数	入 院	519人	—	—	513人	101.2%
	外 来	1,099人	—	—	1,091人	100.7%
1 人 1 日 当 た り 診療単価	入 院	28,258円	27,260円	103.7%	27,432円	103.0%
	外 来	7,029円	6,750円	104.1%	6,986円	100.6%
医業収益	入 院	982,771 千円	1,042,095 千円	94.3%	1,025,973千円	95.8%
	外 来	274,398 千円	253,193 千円	108.4%	287,733千円	95.4%
	合 計	1,257,169 千円	1,295,288 千円	97.1%	1,313,706千円	95.7%
平均在院日数		67.5日	71.7日	—	72.7日	—
病床利用率		72.8%	80.0%	—	78.1%	—
コメント	◆入院 ・入院患者数 新型コロナウイルス感染患者受入に備え、空床確保を行った影響により減少 ・入院単価 単価の高い児童精神科病棟の病床利用率の上昇及び入院精神療法の増加により上昇					

	・平均在院日数 新型コロナ感染患者受入れに備え、退院促進により空床確保を行った影響により短縮 ・病床利用率 新型コロナ感染患者の空床確保、緊急事態宣言発令に伴う任意入院患者数減少により低下 ◆外来 ・外来患者数 緊急事態宣言発令に伴い4月中旬から6月中旬までのデイケア閉鎖により減少 ・外来単価 単価の高いデイケア利用者の割合が多かったことにより上昇
--	---

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
紹介率	52.5%	52.0%	+0.5ポイント	52.5 %	± 0.0ポイント
逆紹介率	48.1%	36.0%	+12.1ポイント	38.1 %	+10.0ポイント
コメント	◆紹介率 ・対前年と同数であり、対目標を達成 ◆逆紹介率 ・認知症疾患医療センターの開設により、鑑別診断の件数が増えたことにより増加				

【損益計算書】

こころの医療センター駒ヶ根

(税抜、単位：千円)

科 目	R2 年度 決算 a	R2 年度 計画 b	対計画 増減 a-b	R 元年度 決算 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	2,244,300	2,126,141	118,159	2,016,780	227,520
医業収益	1,269,168	1,306,960	△ 37,792	1,325,695	△ 56,527
運営費負担金収益	754,580	757,713	△3,133	629,741	124,839
その他経常収益	220,552	61,468	159,084	61,344	159,208
経常費用 (イ)	2,065,345	2,124,787	△ 59,441	2,026,971	38,375
医業費用	1,987,906	2,050,002	△ 62,096	1,954,135	33,771
給与費	1,379,444	1,420,720	△ 41,276	1,367,771	11,673
材料費	115,545	117,763	△ 2,218	117,452	△ 1,907
減価償却費	187,363	195,814	△ 8,451	187,074	289
経費	301,914	305,303	△ 3,389	275,615	26,299
研究研修費	3,640	10,402	△ 6,762	6,223	△ 2,583
財務費用	35,168	35,149	19	37,041	△ 1,873
その他経常費用	42,272	39,636	2,636	35,795	6,477
経常損益 (ア-イ)	178,954	1,354	177,600	△ 10,191	189,145
臨時損益 (ウ)	△ 20	0	△ 20	△ 461	441
当期純損益 (ア-イ+ウ)	178,934	1,354	177,580	△ 10,652	189,586

コメント	◆経常収益 ・ 医業収益は、新型コロナウイルス感染患者受入れのための空床確保に伴う退院促進の実施と緊急事態宣言発令に伴う任意入院の減少による入院患者数減少が大きく影響し、計画を 37,792 千円下回った。 ・ その他経常収益で新型コロナウイルス関連補助金約 1 億 5 千万円を計上したため、経常収益の合計は計画を 118,159 千円上回った。 ◆経常費用 ・ 給与費は、前年度に定年退職者が多かったことによる給与単価の減少により計画を下回った。また、材料費は入院患者数の減少により、減価償却費は高額医療機器 2 台の保守延長に伴う購入先送りにより、経費は病院機能評価の延期等による委託料等の減額により、研究研修費は外部研修の中止による研修旅費・参加費の大幅な減額により、それぞれ計画を下回った。これにより経常費用の合計は計画を 59,441 千円下回った。 ◆損益 当期純損益は、178,934 千円の黒字となり、計画を 177,580 千円上回った。新型コロナウイルス関連補助金（約 1 億 5 千万円）の収益が損益に大きく影響しているが、補助金収益なしでも 20,000 千円余りの黒字を達成した。
------	---

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-3 阿南病院・阿南病院訪問看護ステーションさくら・阿南介護老人保健施設

【理 念】

- 1 私たちは、地域の中核病院として、質の高い適正な医療を提供します。
- 2 私たちは、患者さんの人権を尊重し、明るく、やさしさと思いやりのある医療を提供します。
- 3 私たちは、地域の保健・医療・福祉機関との連携のもと、地域に根ざした医療を提供します。

【基本方針】

- 1 患者さんとその生活の全てを総合的に診る全人的医療の実践に努めます。
- 2 交通事情や地域ニーズに合った巡回診療、訪問診療・看護・リハビリなどの在宅医療を行い、利便性向上と地域医療の提供に努めます。
- 3 認知症患者などに適切な医療を提供できるよう、地域の関係者と勉強会を実施するなど連携を強化し、地域全体で高齢者を支えます。
- 4 下伊那南部地域唯一の病院として、年間を通して休日・夜間患者などの救急患者の診療を行います。
- 5 下伊那南部地域唯一の病院として、疾病の予防・早期発見及び治療に寄与できるように、体制や医療機器の充実に努めます。
- 6 地域住民との連携を図るために積極的な情報発信や交流を行います。
- 7 「人材確保」のために必要な環境整備に努めるとともに、「人材育成」のため院内研修会などの充実に努めます。

2-3-1 総合評価

【成 果】

ア 地域包括ケアシステムの推進

地域医療総合支援センターを中心に、訪問診療、看護、リハビリ、服薬指導等を積極的に実施し、在宅医療を充実。特に4月1日の「訪問看護ステーションさくら」の開設により、訪問看護件数が大幅に増加

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問診療	313 件	—	—	192 件	121 件
訪問看護	2,963 件	3,108 件	△145 件	1,006 件	1,957 件
訪問リハビリ	843 件	—	—	879 件	△36 件
訪問薬剤指導	28 件	—	—	27 件	1 件
合 計	4,147 件	3,108 件	△145 件	2,104 件	2,043 件

イ へき地医療の取組

阿南町和合地区に加え、無医村となった天龍村において、4月から週1回の巡回診療を実施

地区名	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
阿南町和合 (日吉)	26 回 (77 人)	26 回 (75 人)	0 回 (2 人)	41 回 (103 人)	△15 回 (△26 人)
天龍村	50 回 (962 人)	—	50 回 (962 人)	—	50 回 (962 人)
計	76 回 (1,039 人)	26 回 (75 人)	50 回 (964 人)	41 回 (103 人)	35 回 (936 人)

※前年度実績には、阿南町和合（鈴ヶ沢）地区を含む。

ウ 新型コロナウイルス感染症への対応

4月から感染者の受入れを開始。特に他地区及び外国人患者を積極的に受入れ

項 目	受入人数	入院日数（延べ）	入院日数（平均）
感染者受入数	56 人	368 日	6.6 日

【検査件数】

検査種類	検査件数	検査開始日
P C R (R T - P C R) 検査	17 件	令和 2 年 12 月 28 日
P C R (L A M P) 検査	203 件	令和 2 年 7 月 30 日
抗原定性検査	28 件	令和 2 年 6 月 7 日
計	248 件	

エ 介護サービスの提供（阿南介護老人保健施設）

在宅復帰率の向上及び在宅訪問を推進。また基本サービスの施設基準について、より上位の単位数算定及び短期集中リハビリテーション加算件数（認知症加算含む）の大幅増により、収益が増加

【阿南介護老人保健施設利用実績】

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
利用者数	13,635 人	14,000 人	△365 人	13,700 人	△65 人
入所単価	10,454 円	9,654 円	800 円	9,779 円	675 円

【短期集中リハビリテーション加算】

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
加算件数	146 件	—	—	57 件	89 件
加算金額	3,451,200 円	—	—	1,264,800 円	2,186,400 円

オ 在宅看護の提供体制の充実（訪問看護）

訪問看護ステーションの開設により、地域の在宅看護の提供体制を充実

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
利用者数	2,963 人	3,108 人	△145 人	1,006 人	1,957 人

カ 地域連携の推進

下伊那南部 5 町村の首長及び議会議長、地元選出の県議、県機関等を構成員とした病院運営懇談会を機構発足後初めて開催。阿南病院の現状を地域に伝え、要望や意見を運営に反映

キ 地域医療構想への対応

新型コロナウイルス感染者の受入対応のため、7月に予定していた地域包括ケア病床（16 床）の転換が遅れ、3月から本格的に稼働開始

実 績	年度計画	対年度計画	病床利用率	1 日あたり入所単価
230 人	4,380 人	△4,150 人	62.5%	34,082 円

2 - 3 - 2 経営指標等

【経営指標】

1 阿南病院 令和2年度実績

項 目	区 分	実 績	年度目標	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入 院	14,680人	15,980人	91.9%	17,053人	86.1%
	外 来	47,565人	48,080人	98.9%	46,882人	101.5%
新患者数	入 院	801人	—	—	875人	91.5%
	外 来	487人	—	—	632人	77.1%
1人1日 当 たり 診療単価	入 院	29,671 円	31,613 円	93.9%	28,291 円	104.9%
	外 来	8,972 円	8,125 円	110.4%	7,066 円	127.0%
医業収益	入 院	435,568 千円	496,163 千円	87.8%	482,443千円	90.3%
	外 来	370,330 千円	340,429 千円	108.8%	331,254千円	111.8%
	合 計	805,898 千円	836,592 千円	96.3%	813,696千円	99.0%
平均在院日数 (一般病棟)		18.3日	20.9日	—	19.9日	—
病床利用率		54.3%	70.0%	—	57.4%	—
コメント	◆入院 ・患者数は、新型コロナウイルス感染症患者の受入れ及び整形外科の常勤医不在により、対計画、対前年ともに減少 ・診療単価は、看護補助加算の算定、注射料の増などにより対前年で増加したが、新型コロナの影響により地域包括ケア病床の本格稼働が3月にずれ込んだことから対計画は未達成 ・入院収益は、患者数の減少や診療単価が計画に達しなかったことなどにより、対計画比で大きく減少 ◆外来 ・患者数は、天龍村の巡回診療や施設診療の実施及び来院患者の増により、内科が増加。小児科が新型コロナの影響のため、また整形外科が非常勤体制になったことにより減少。訪問看護ステーションが開設し、訪問看護が増加したことにより、全体では、対計画、対前年とも増加 ・診療単価は、透析の順調な伸びや、訪問看護ステーションの単価が高額なことなどから大きく増額となり、外来収益も増加					

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
紹介率	31.2%	21.5%	+9.7ポイント	22.5%	+8.7ポイント
逆紹介率	17.6%	13.5%	+4.1ポイント	15.3%	+2.3ポイント
コメント	◆紹介率・逆紹介率 ・診療情報提供書の数、新型コロナの影響により、診療所からは大きく減少、飯田市立病院からは感染者受入れにより増加。初診患者が減少したことにより、紹介率、逆紹介率ともに対前年度比及び目標比で増				

2 阿南病院訪問看護ステーションさくら 令和2年度実績

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
利用者数	2,963人	3,108人	95.3%	1,006人	294.5%
コメント	◆利用者数 ・下伊那南部総合事務組合の訪問看護ステーションの利用者・スタッフを継承し、スムーズに事業を継続して概ね目標を達することができた。また、前年度の当院訪問看護の利用実績と比較すると大幅に増加した。				

3 阿南介護老人保健施設 令和2年度実績

項 目	区 分	実 績	年度目標	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	入所者	13,635人	14,000人	97.4%	13,700人	99.5%
	通所者	378人	700人	54.0%	549人	68.9%
1人1日 当たり単価	入所	10,454 円	9,654 円	108.3%	9,779 円	106.9%
	通所	10,040 円	8,739 円	114.9%	9,261 円	108.4%
営業収益	入所	142,537 千円	135,162 千円	105.5%	133,969千円	106.4%
	通所	3,795 千円	6,117 千円	62.0%	5,084千円	74.6%
コメント	◆入所 ・入所者数は、対前年比、対目標比とも微減。理由としては、新型コロナウイルスの感染を恐れて新規の申込が減少。また人口減に歯止めがかからない圏域の中で施設間の競合が激しく、特に阿南町の利用者数が低迷。さらに阿南病院の入院患者減により受入数が減少したことによる。 ◆通所 ・通所者数は、阿南町、天龍村から新規利用者5人を獲得したが、既存利用者の急死や入院、施設入所などが相次ぎ、対前年、対計画とも大きく減少。					

【損益計算書】

1 阿南病院

(税抜、単位：千円)

科 目	R2 年度 決算 a	R2 年度 計画 b	対計画 増減 a-b	R 元年度 決算 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	2,062,114	1,683,790	378,324	1,710,432	351,682
医業収益	856,509	885,228	△ 28,719	862,457	△ 5,948
運営費負担金収益	746,762	757,958	△11,196	809,623	△ 62,861
その他経常収益	458,843	40,604	418,239	38,352	420,491
経常費用 (イ)	1,674,893	1,674,900	△ 7	1,623,219	51,674
医業費用	1,609,922	1,609,828	94	1,563,162	46,760

給与費	955,452	929,392	26,060	926,002	29,450
材料費	152,927	160,410	△ 7,483	152,712	215
減価償却費	197,166	200,319	△ 3,153	191,878	5,288
経費	300,559	312,111	△ 11,552	285,736	14,823
研究研修費	3,818	7,596	△ 3,778	6,834	△ 3,016
財務費用	17,763	19,010	△ 1,247	18,757	△ 994
その他経常費用	47,208	46,062	1,146	41,300	5,908
経常損益 (ア-イ)	387,221	8,890	378,331	87,213	300,008
臨時損益 (ウ)	△ 4,254	0	△ 4,254	△ 82	△ 4,172
当期純損益 (ア-イ+ウ)	382,967	8,890	374,077	87,131	295,836
コメント	◆経常収益 - 新型コロナウイルス感染症患者の受入れ及び整形外科の常勤医不在等による入院患者数の減少により、入院収益は計画を下回った。 - その他経常収益について、新型コロナウイルス感染症患者対応に伴う補助金の支給が増加したため対計画を大幅に上回る事となった。 ◆経常費用 - 給与費については、常勤整形外科医不在に伴う非常勤医師の増、訪問看護ステーションさくらのスタッフ等の増により計画を上回った。 - 材料費については、新型コロナウイルス感染症受入れによる患者数の減に伴い、医薬品購入数の減、提供食事数の減による給食材料費の減などにより計画を下回った。 - 経費については、電気料契約の変更、重油単価の安値推移、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、白内障手術の中止等により計画を下回った。 なお、臨時損失は、老朽化した医師住宅の撤去費用、除却損、借地権の償却等による。				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2 阿南介護老人保健施設

(税抜、単位：千円)

科 目	R2 年度 決算 a	R2 年度 計画 b	対計画 増減 a-b	R 元年度 決算 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	229,459	213,702	15,757	222,300	7,159
介護老人保健施設収益	171,660	167,379	4,281	164,944	6,716
運営費負担金収益	56,942	45,837	11,105	56,868	74
その他経常収益	857	486	371	488	369
経常費用 (イ)	221,358	225,030	△ 3,673	229,896	△ 8,539
介護老人保健施設費用	208,123	211,316	△ 3,193	214,704	△ 6,581
給与費	141,806	142,541	△ 735	145,816	△ 4,010
材料費	12,748	13,849	△ 1,101	14,034	△ 1,286
減価償却費	22,971	23,174	△ 203	22,696	275
経費	30,507	31,324	△ 817	32,078	△ 1,571
研究研修費	91	428	△ 337	80	11

財務費用	8,934	9,166	△ 232	11,104	△ 2,170
その他経常費用	4,301	4,548	△ 247	4,088	213
経常損益 (ア-イ)	8,101	△ 11,328	19,429	△ 7,596	15,697
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	8,101	△ 11,328	19,429	△ 7,596	15,697
コメント	◆経常収益 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で入所者数は減少したが、在宅復帰率の向上や在宅訪問を進め、基本サービス料の施設基準について7月から「加算型」、12月から「強化型」の単位数を算定、また短期集中リハ加算算定件数の増加もあり収益単価が向上したため、入所収益は計画を上回った。 ◆経常費用 ・給与費については、前年度は木曽老健への給与費の過誤計上を修正したため膨らんだが、今期通常化されたため計画を下回った。 ・材料費については、給食材料において入所・通所者数の減少による食数の減、高額な食材を含む献立の見直し等により計画を下回った。 ・経費については、委託料において通所リハビリ送迎代行業務費の削減等により計画を下回った。				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-4 木曽病院・木曽病院介護医療院・木曽介護老人保健施設

【理 念】

私達は、患者さんの立場にたち、信頼と満足が得られて、心のふれ合いのある医療サービスを実践します。

【基本方針】

- 1 木曽で唯一の病院として、いつでも安心してかかることができる地域に信頼される病院をめざします。
- 2 人権を尊重し、十分な説明と同意（インフォームドコンセント）に基づいた医療サービスを提供します。とりわけチーム医療に取り組みます。
- 3 つねに新しい知識技術の習得に努め、地域に根ざした質の高い医療を提供します。とりわけ救急医療の充実に努めます。
- 4 町村や他の医療・福祉・保健・介護施設と連携を強化して、地域の要望に応えられるよう努めます。とりわけ在宅医療を充実します。
- 5 清潔、快適で安らぎのある療養環境の整備改善に努めます。
- 6 人間性にあふれた、働きがいのある病院運営に努めます。
- 7 健全経営の維持に努めます。

2-4-1 総合評価

【成 果】

ア 在宅医療の充実

令和2年7月より在宅療養中の患者のニーズに応えられるよう在宅療養支援病院の施設基準を満たしたことにより、緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保
訪問診療件数は、新型コロナウイルス感染症対策で年度当初施設への訪問を控えたため減少

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問診療件数	552 件	600 件	△48 件	712 件	△160 件
訪問看護件数	4,169 件	3,800 件	369 件	3,957 件	212 件
訪問リハビリ件数	840 件	600 件	240 件	769 件	71 件
計	5,561 件	5,000 件	561 件	5,438 件	123 件

イ へき地医療の充実

- ・巡回診療の実施により、無医地区の医療確保に貢献

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
巡回診療件数	21 回 (44 人)	24 回 (48 人)	△3 回 (△4 人)	24 回 (43 人)	△3 回 (1 人)

- ・準地域医療人材拠点病院に指定（4月1日）

令和3年3月に木曽町みたけ診療所に医師1人を派遣

ウ 地域医療連携の充実

・CT、MRIの共同利用の促進

診療所医師が使いやすいシステムを再構築するなどにより、関係機関との連携を強化

【利用件数】

項 目	実 績
CT	26 件
MRI	4 件

・信州メディカルネットの活用

信州メディカルネットにより、ICT を利用した情報提供患者数が増加

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
参加医療機関	5 件	—	—	2 件	3 件
診療情報提供 患者数	55 件	—	—	1 件	54 件

エ 地域がん診療病院としての診療機能を充実

歯科口腔外科の診療体制の準備及び施設整備を実施し、令和3年4月より開設

オ 介護サービスの充実

・木曽介護老人保健施設

令和2年7月より在宅強化型の取得により、自宅での生活能力が向上

・介護医療院（令和2年3月開設）

長期療養のための医療と日常生活上の介護を一体的に提供する体制を整備

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
利用者数	5,834人	5,475人	359人	231人	5,603人

カ モバイル端末の活用による医療従事者間の情報共有の推進

・ビデオ通信機能を使用したオンライン診療の試行（小児科）

・信州メディカルネットのリモートカルテ機能を活用し、医師への相談機能を強化

キ 京セラ式アメーバ経営の運用開始

・時間当たり採算指標を用いた職員の経営参画を促す仕組みの構築

・京セラコミュニケーションシステム株式会社のコンサルタントと部門リーダーとの面談実施

・部門リーダーと時間当たり採算指標の数値を共有

・新人事評価制度との連結と、各部署のBSCと各職員の目標設定との整合の推進

ク 収益の確保

・算定できていない管理料や加算の抽出を行い既存算定件数の増加及び新規加算の取得

項 目	実 績	金 額
特定疾患療養管理料	8,112 件	6,163 千円
認知症ケア加算2	1,722 件	3,786 千円

在宅療養指導料	497 件	804 千円
せん妄ハイリスク患者ケア加算	303 件	296 千円
婦人科特定疾患治療管理料	117 件	272 千円

- ・ 人間ドック部位別がん検診の実施（令和 3 年 1 月から開始）

項 目	実 績
膵臓がん検診	5 件

ケ 新型コロナウイルス感染症への対応

第二種感染症指定医療機関として、他地域の感染患者を積極的に受け入れるなど感染拡大に対応

項 目	受入人数	入院日数（延べ）	入院日数（平均）
感染者受入数	33 人	327 日	9.9 日
疑い患者受入数	5 人	18 日	3.6 日
計	38 人	345 日	—

- ・ 検査件数

令和 2 年 5 月から外来・検査センターを受託

検査種類	検査件数	検査開始日
P C R (L A M P) 検査	181 件	令和 2 年 7 月 21 日
P C R (R T - P C R) 検査	143 件	令和 2 年 4 月 1 日
抗原定性検査	42 件	令和 2 年 6 月 8 日
抗原定量検査	1,561 件	令和 2 年 9 月 1 日
計	1,927 件	

2 - 4 - 2 経営指標等

【経営指標】

1 木曽病院 令和 2 年度実績 ※延患者数には介護医療院を含む

項 目	区 分	実 績	年度目標	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入 院	40,782 人	47,473 人	85.9%	43,681 人	93.4%
	外 来	109,849 人	124,233 人	88.4%	125,512 人	87.5%
新患者数	入 院	2,171 人	- 人	-%	2,473 人	87.8%
	外 来	6,100 人	- 人	-%	8,225 人	74.2%
1 人 1 日 当 たり 診療単価	入 院	36,326 円	35,272 円	103.0%	37,189 円	97.7%
	外 来	11,664 円	11,500 円	101.4%	10,040 円	116.2%
医業収益	入 院	1,481,435 千円	1,674,475 千円	88.5%	1,615,866 千円	91.7%
	外 来	1,281,239 千円	1,428,624 千円	89.7%	1,260,113 千円	101.7%
	合 計	2,762,674 千円	3,103,099 千円	89.0%	2,875,979 千円	96.1%
平均在院日数		15.9 日	16.5 日	—	17.9 日	—

病床利用率		61.2%	74.0%	—	69.4%	—
コメント	◆入院 ・患者数は、新型コロナウイルス感染症患者受入れのため、地域包括ケア病床を減らし空床確保をしたため減少 ・入院単価 新規加算及び既存加算の算定件数の増加に努めた結果上昇 ・平均在院日数 空床確保を図った結果、稼働病床数が減少し、病床回転率を高めたため短縮 ・病床利用率 新型コロナ感染症対策により空床確保を行った影響により低下 ◆外来 ・患者数は、新型コロナウイルス感染症流行による受診抑制の影響で減少 ・外来単価は、許可病床を199床に減らしたこと、在宅療養支援病院の取得により指導料及び管理料等の算定が可能になった結果上昇					

項 目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度増減
紹介率	20.1%	26.0%	△5.9ポイント	28.1%	△8.0ポイント
逆紹介率	28.0%	17.0%	+11.0ポイント	21.5%	+6.5ポイント
コメント	◆紹介率 ・分子である初診救急患者数の大幅な減少により、前年度比△8.0ポイントで前年度を下回った。 ◆逆紹介率 ・分子である逆紹介患者数は微減に留まったが、分母である初診患者数がそれを上回って減少したため+6.5ポイント前年度を上回った。				

2 木曽病院介護医療院 令和2年度実績 ※令和2年3月に開設

項 目	実 績	年度目標	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	5,834人	5,475人	106.6%	231人	2,525.5%
コメント	◆利用者数 郡内外の地域包括支援センター等への広報の実施などにより、目標達成				

3 木曽介護老人保健施設 令和2年度実績

項 目	区 分	実 績	年度目標	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	入所者	14,915人	14,600人	102.2%	14,820人	100.6%
	通所者	478人	711人	67.2%	807人	59.2%
1人1日 当たり単価	入所	11,301円	11,397円	99.2%	10,547円	107.1%
	通所	9,512円	9,146円	104.0%	9,013円	105.5%

営業収益	入所	168,553 千円	166,400 千円	101.3%	156,303 千円	107.8%
	通所	4,547 千円	6,503 千円	69.9%	7,273 千円	62.5%
コメント	◆入所 ・入所者数は、郡内の社会福祉協議会等へ広報を行ったことなどにより増加 ◆通所 ・通所者数は、新型コロナウイルス感染症対策の受入れ停止などにより減少					

【損益計算書】

1 木曽病院

(税抜、単位：千円)

科 目	R2 年度 決算 a	R2 年度 計画 b	対計画 増減 a-b	R 元年度 決算 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	4,288,429	4,148,851	139,578	4,013,583	274,846
医業収益	2,859,054	3,196,790	△ 337,736	2,975,300	△ 116,246
運営費負担金収益	909,543	876,107	33,436	941,164	△ 31,621
その他経常収益	519,832	75,954	443,878	97,119	422,713
経常費用 (イ)	3,945,978	4,076,176	△ 130,198	3,987,244	△ 41,266
医業費用	3,785,052	3,903,926	△ 118,874	3,827,918	△ 42,866
給与費	2,256,678	2,255,163	1,515	2,236,117	20,561
材料費	689,289	752,704	△ 63,415	669,931	19,358
減価償却費	244,240	265,132	△ 20,892	323,809	△ 79,569
経費	588,162	621,901	△ 33,739	589,145	△ 983
研究研修費	6,683	9,026	△ 2,343	8,916	△ 2,233
財務費用	30,131	34,159	△ 4,028	42,403	△ 12,272
その他経常費用	130,795	138,091	△ 7,296	116,923	13,872
経常損益 (ア-イ)	342,451	72,675	269,776	26,339	316,112
臨時損益 (ウ)	△ 3,578	0	△ 3,578	△ 1,666	△ 1,912
当期純損益 (ア-イ+ウ)	338,873	72,675	266,198	24,673	314,200
コメント	◆医療収益 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、入院患者については患者受入に備えた空床確保により、外来患者については受診控え等により患者数が減少したため、計画を下回った。 ◆医業費用 ・全体的には計画を下回ったが、給与費について、職員総数は1名減少したものの医師が2名増加したこと等により計画を上回った。 ・新型コロナ感染症関連分を含む補助金として約 428,000 千円が収入に計上されたため、当期純損益は 338,873 千円の黒字となった。				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2 木曽介護老人保健施設

(税抜、単位：千円)

科 目	R2 年度 決算 a	R2 年度 計画 b	対計画 増減 a-b	R 元年度 決算 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	251,823	244,183	7,640	241,966	9,857
介護老人保健施設収益	199,311	197,642	1,669	190,134	9,177
運営費負担金収益	48,601	46,067	2,534	49,922	△ 1,321
その他経常収益	3,911	474	3,437	1,910	2,001
経常費用 (イ)	269,440	245,913	23,527	247,529	21,911
介護老人保健施設費用	252,822	228,608	24,214	229,249	23,573
給与費	183,612	154,161	29,451	157,328	26,284
材料費	16,544	17,828	△ 1,284	17,506	△ 962
減価償却費	13,908	13,809	99	14,284	△ 376
経費	38,716	42,548	△ 3,832	39,925	△ 1,209
研究研修費	42	262	△ 220	206	△ 164
財務費用	11,075	11,222	△ 147	13,103	△ 2,028
その他経常費用	5,543	6,083	△ 540	5,177	366
経常損益 (ア-イ)	△ 17,617	△ 1,730	△ 15,887	△ 5,563	△ 12,054
臨時損益 (ウ)	△ 1	0	△ 1	0	△ 1
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△ 17,618	△ 1,730	△ 15,888	△ 5,563	△ 12,055
コメント	◆経常収益 ・新型コロナウイルス感染症対策として通所の受入を停止したため通所利用者数は減少したものの、入所者数の増加と在宅強化型の算定要件の取得により、計画を上回った。 ◆経常費用 ・材料費・経費等は計画を下回ったが、給与費が大幅に増加したため、当期純損益は 17,618 千円の赤字となった。				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-5 こども病院

【理 念】

わたし達は、未来を担うこども達とその家族のために、質が高く、安全な医療を行います。

【基本方針】

- 1 こどもと家族の権利の尊重
- 2 療育環境の充実
- 3 チーム医療の実践
- 4 医療従事者の育成
- 5 健全な病院経営

2-5-1 総合評価

【成 果】

ア ニューロケア（神経治療）センターの取組

令和2年10月に開設し、複雑で高度化した神経機能の疾患に多職種連携で対応
（代表的な治療法と症例）

治療法名	症例名	実 績	年度計画	対年度 計画	前年度 実績	対前年度 実績
パクロフェン持 続 髄注療法	周産期障害による脳 性麻痺（3人、うち 1人手術） 急性脳症後遺症によ る痙縮（1人）	手術1件 トライアル4件	—	—	0件	手術1件 トライアル4 件
迷走神経刺 激 療法	急性脳症後遺症によ る難治てんかんと症 候性難治てんかん （新規2人、既存2 人）	新規2件	—	—	新規1件	新規1人 累計4人 管理中
ロボット ス ー ツ HAL 療法	デュシャンヌ型筋ジ ストロフィー（2 人） 肢帯型筋ジストロフ イー （1人） 脊髄性筋萎縮症（1 人）	85件	—	—	51件	34件
ヌシネルセ ン 髄注療法	脊髄性筋萎縮症（7 人）	19件	—	—	11件	8件

イ 最近の小児患者のニーズに対応した診療体制の構築

・あたまの形外来

令和元年 10 月から診療開始。県内・県外の関連施設に対する認知度が上がり患者数が増加

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
患者数	232 人	—	—	105 人	127 人
新患者数	71 人	—	—	32 人	39 人
矯正用ヘルメット作成数	30 件	—	—	12 件	18 件

ウ 地域の医療機関と連携した高度医療機器の共同利用

地域の医療機関と連携し成人を対象とした放射線治療を拡充

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
放射線治療人数	66 人	—	—	65 人	1 人
放射線治療件数	2,048 件	—	—	1,994 件	54 件
リニアック稼働額	31,044 千円	—	—	31,095 千円	△51 千円

※人数は延べ紹介人数。件数は延べ照射回数と治療計画数の合算。稼働額は成人・小児の合算

エ 訪問診療センターの取組

医療ケアを自宅で継続する患者への訪問診療を充実。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成はできなかったが、前年度実績（29 件）から大幅増

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問診療・リハビリ件数	54 件	180 件	△126 件	29 件	25 件

オ 経営改善、経費削減の取組

薬剤部にて各種診療報酬を積極的に算定

・薬剤管理指導料

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
実施件数	2,950 件	—	—	1,687 件	1,263 件
稼働額	9,949,850 円	—	—	5,137,050 円	4,812,800 円

・病棟薬剤業務実施加算

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
実施件数	15,261 件	—	—	10,176 件	5,085 件
稼働額	24,034,290 円	—	—	15,178,701 円	8,855,589 円

・小児入院医療管理料 1 の積極的な算定

令和 2 年 11 月から、PICU12 床のうちの 4 床を HCU として運用し、小児入院医療管理料 1 を算定したことにより、収益増を実現

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
HCU 小児入院医療 管理料 1	13,538,000 円	—	—	0 円	13,538,000 円

・超過勤務手当の削減

働き方改革を推進するための人員を配置、併せて令和元年度に大幅増となった超過勤務手当の削減を推進し、休日の振替等により大幅減を実現

部 署	手当額実績	年度計画	対年度計画	前年度手当額	対前年度削減額
看護部	92,938,424 円	—	—	145,853,520 円	52,915,096 円

カ 新型コロナウイルス感染症への対応

小児の感染疑いがある患者を受入れ

項 目	受入人数	入院日数（延べ）	入院日数（平均）
疑い患者受入数	23 人	36 日	1.6 日
計	23 人	36 日	—

※入院日数は陰性が判明するまでの日数

・検査件数

検査種類	検査件数	開始日
P C R 検査	27件	令和 2 年 4 月 13 日
MultiplexPCR 検査	25件	令和 2 年 10 月 25 日
計	52件	

※MultiplexPCR検査は複数のウイルスを同時に検出する検査

2 - 5 - 2 経営指標等

【経営指標】

こども病院 令和 2 年度実績

項 目	区 分	実 績	年度目標	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入 院	49,519人	54,573人	90.7%	52,647人	94.1%
	外 来	64,261人	69,638人	92.3%	66,776人	96.2%
新患者数	入 院	3,744人	—	—	4,087人	91.6%
	外 来	3,578人	—	—	4,032人	88.7%
1 人 1 日 当 たり 診療単価	入 院	105,847 円	101,000 円	104.8%	102,667 円	103.1%
	外 来	13,081 円	13,230 円	98.9%	12,681 円	103.2%
医業収益	入 院	5,241,569 千円	5,587,227 千円	93.8%	5,405,108 千円	97.0%
	外 来	840,572 千円	921,421 千円	91.2%	846,806 千円	99.3%

	合 計	6,082,141 千円	6,508,648 千円	93.4%	6,251,915 千円	97.3%
平均在院日数		12.8日	14.1日	－	12.4日	－
病床利用率		69.2%	76.8%	－	73.1%	－
コメント	◆入院 ・入院患者数 緊急事態宣言に伴い県外患者等の入院抑制等を実施し減少 ・入院単価 手術室利用件数は前年並みだったが高額医薬品の利用増等により上昇 ・平均在院日数 入院抑制等により短縮 ・病床利用率 入院抑制等により低下 ◆外来 ・外来患者数 新型コロナウイルス感染拡大による外来延期や受診控え等により減少 ・外来単価 新たに高額な注射薬を採用し利用が増加したため上昇					

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度増減
紹介率	70.5%	77.0%	△6.5 [※] イト	75.4%	△4.9 [※] イト
逆紹介率	80.6%	73.9%	+6.7 [※] イト	75.1%	+5.5 [※] イト
コメント	◆紹介率、逆紹介率 地域医療支援病院計算式により算定。 なお、いずれも地域医療支援病院の要件を満たしている。				

【損益計算書】

こども病院

(税抜、単位：千円)

科 目	R2 年度 決算 a	R2 年度 計画 b	対計画 増減 a-b	R 元年度 決算 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	8,416,595	8,536,801	△ 120,206	8,321,911	94,684
医業収益	6,156,754	6,563,637	△ 406,883	6,309,286	△ 152,532
運営費負担金収益	1,791,037	1,768,230	22,807	1,776,956	14,081
その他経常収益	468,804	204,934	263,870	235,669	233,135
経常費用 (イ)	8,458,031	8,351,065	106,966	8,225,732	232,299
医業費用	8,094,084	7,985,063	109,021	7,875,085	218,999
給与費	4,702,014	4,641,825	60,189	4,595,350	106,664
材料費	1,465,679	1,398,787	66,892	1,406,046	59,633
減価償却費	728,887	749,449	△ 20,562	701,075	27,812
経費	1,171,684	1,156,878	14,806	1,144,622	27,062

研究研修費	25,820	38,124	△ 12,304	27,992	△ 2,172
財務費用	104,058	112,056	△ 7,998	123,341	△ 19,283
その他経常費用	259,889	253,946	5,943	227,306	32,583
経常損益 (ア-イ)	△ 41,436	185,736	△ 227,172	96,179	△ 137,615
臨時損益 (ウ)	△ 1,403	0	△ 1,403	△ 544	△ 859
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△ 42,839	185,736	△ 228,575	95,635	△ 138,474
コメント	◆医療収益 高額の注射薬の払い出し件数増や病棟の運用変更による入院料の増により診療単価は入院・外来とも増加したが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言等の影響による患者数の減少が大きく、計画を△406,883 千円下回った。 ◆医療費用 働き方改革に対応するため正規職員は増加したものの超過勤務手当を大幅に削減できたため給与費はほぼ計画どおりであった。材料費は高額医薬品の使用量の増加と感染防止対策用品の値上げにより計画を 66,892 千円上回った。経費は、在宅診療に使用する酸素濃縮器借上料の増加や電子カルテ改修に関する費用が増加したものの、ほぼ計画どおりであった。 この結果、医療費用は計画を 109,021 千円上回った。 ◆経常損益 各種補助金の活用と収益確保や費用削減の経営改善策を推進したものの患者数減少による収益の落ち込みの影響は大きく、計画を△227,172 千円下回る△41,436 千円の赤字となった。				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

イ 教員等の安定的な確保及び教育力の向上

・専任教員の育成

項 目	実 績	計 画	対計画	前年度実績	対前年度実績
長野県看護教員 養成講習会	母性看護学 1 人 基礎看護学 1 人	母性看護学 1 人 基礎看護学 1 人	計画どおり	0 人	2 人
放送大学 在学	2 人	2 人	計画どおり	2 人	前年と同じ
その他大学進学	1 人	0 人	1 人	0 人	1 人

ウ 学生確保に向けた取り組み

- ・高校訪問、出前授業、ホームページ、オープンキャンパスを通じた認知度の向上
新型コロナウイルス感染症拡大のため、高校訪問は大幅に制限された。

項 目	実 績	計 画	対計画	前年度実績	対前年度実績
高校訪問数	5 校	62 校	△57 校	62 校	△57 校
ガイダンス・模 擬授業	13 回	11 回	2 回	11 回	2 回
オープンキャン パス参加者	194 人 (保護者含む)	200 人	△6 人	223 人 (保護者含む)	△29 人
ホームペー ジ ブログ更新	36 回	36 回	計画どおり	40 回	△4 回

エ 学生の学習環境及び生活環境の整備・充実

- ・入学前学習から入学後の学習習慣につながるサポート
入学前に課題を提示し学習への動機付け、入学後に知識確認テストの実施
- ・国家試験（以下国試）対策の推進及び受験のサポート

全国模擬試験・ 過去問題の実施 など	実 績	計 画	対計画	前年度実績	対前年度実績
1 年生	3 回	2 回	1 回	1 回	2 回
2 年生	4 回	2 回	2 回	2 回	2 回
3 年生	25 回	11 回	14 回	11 回	14 回

・模擬試験以外のサポート

学年	内 容	実 績	計 画	対計画	前年度実績	対前年度実績
1 年生	国試ガイダンス	1 回	1 回	計画どおり	2 回	△1 回
2 年生	国試ガイダンス 解剖生理の復習	1 回 1 回	1 回 1 回	計画どおり	1 回 1 回	前年と同じ
3 年生	実習中 15 分ド リル 業者の学習講座 特別講座 土曜開校	実習中は ほぼ毎日 夏休み 冬休み 2 回 9 日	実習中は毎 日 夏休み 冬休み 3 回 8 日	ほぼ、計画ど おり	実習中はほぼ 毎日 夏休み 冬休み 2 回 7 日	前年と同じ 前年と同じ 前年と同じ 2 日

・国家試験合格率

項 目	実 績	計 画	対計画	前年度実績
第 110 回 看護師国家試験	21 人	22 人	△1 人	26 人 (計画に対し△1 人)

オ 地元関係団体などとの連携・協力体制の構築

- ・地元行事への参加を通じて交流を深めて学校の認知度をあげる

項目	実 績	計 画	対計画
実施 件数	1 件	8 件	△ 7 件
内容	2 月 雪灯りの散歩道 *新型コロナウイルス感染症拡大のため行事が中止となり参加できず。	4 月 学生宿舎地区の春祭り 5 月 木曽町学生歓迎会 6 月 木曽郡ふれあいスポーツ交流会 7 月 木曽病院防災訓練 9 月 林業大学校との連携事業 10 月 学校所在地の文化祭参加 11 月 木曽病院祭 2 月 雪灯りの散歩道	

カ 組織的、継続的な学校運営及び教育活動の改善

- ・学校評議会を通して意見収集
- ・自己点検・自己評価を行いホームページで公表

項 目	実 績	計 画	対計画	前年度実績	対前年度実績
学校評議会の開催	1 回 (書面会議)	1 回	計画どおり	1 回	前年と同じ
自己点検・自己評価の公表	1 回	1 回	計画どおり	0 回	1 回

キ 就職活動の支援

- ・卒業後のキャリア形成のイメージをつくり就職活動のサポートをする。

項 目	実 績	計 画	対計画	前年度実績	対前年度実績
業者による就職 マナー講座開催	2 回	2 回	計画どおり	2 回	前年と同じ
キャリア形成講座 の開催	1 回	1 回	計画どおり	1 回	前年と同じ

・就職実績

項 目	実 績	計 画	対計画	前年度実績	対前年度実績
長野県内就職者	18 人	18 人	－	22 人	△ 4 人
長野県外就職者	1 人	2 人	△ 1 人	3 人	△ 2 人
進学	2 人	2 人	－	0 人	2 人
その他	1 人	なし	1 人	1 人	± 0 人
合計	22 人	22 人	－	26 人	△ 4 人

2 - 6 - 2 経営指標等

【損益計算書】

信州木曽看護専門学校

(税抜、単位：千円)

科 目	R2 年度 決算 a	R2 年度 計画 b	対計画 増減 a-b	R 元年度 決算 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	157,863	158,298	△ 435	131,253	26,610
看護師養成所収益	18,493	19,933	△ 1,440	19,098	△ 605
運営費負担金収益	122,732	122,604	128	94,862	27,870
その他経常収益	16,638	15,761	877	17,293	△ 655
経常費用 (イ)	157,105	167,990	△ 10,885	153,724	3,381
看護師養成所費用	155,341	166,389	△ 11,048	151,977	3,364
給与費	115,073	124,231	△ 9,158	111,749	3,324
材料費	0	0	0	0	0
減価償却費	10,020	9,937	83	8,321	1,699
経費	29,280	30,962	△ 1,682	30,300	△ 1,020
研究研修費	968	1,259	△ 291	1,607	△ 639
財務費用	0	1	△ 1	0	0
その他経常費用	1,764	1,600	164	1,747	17
経常損益 (ア-イ)	758	△ 9,692	10,450	△ 22,471	23,229
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	758	△ 9,692	10,450	△ 22,471	23,229
コメント	◆経常収益 ・ 看護師養成所収益は、授業料減免等により減少 ◆経常費用 ・ 給与費は、教員の配置換えにより減少 ・ 経費は、コロナウイルス感染症により実習先が変更になったことによりマイクロバス運転委託料が不要となったこと等により減少				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-7 本部研修センター・本部事務局

2-7-1 総合評価

【成 果】

ア 医師の確保・養成に係る取組

- ・医学生や初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション教育を充実

区 分	対 象		実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
シミュレーション教育	医学生	回数	16 回	—	—	33 回	△17 回
		参加者数	31 人	—	—	58 人	△27 人
	初期臨床研修医	回数	22 回	—	—	20 回	2 回
		参加者数	74 人	—	—	56 人	18 人
シミュレーション体験	医学生	回数	5 回	—	—	2 回	3 回
		参加者数	5 人	—	—	2 人	3 人

- ・医学生を対象とした県立病院機構病院説明会（長野県立 5 病院 Joint セミナー）を開催

新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインを使用した事前動画配信、ライブ配信により開催

区 分	開催場所	開催方法	参加者数
令和 2 年度	—	事前動画配信	チャンネル登録 59 人、再生回数 1,073 回
		ライブ配信	23 人 12 大学
令和元年度	信州大学	体験型病院説明会	11 人 2 大学

イ 機構職員の養成に係る取組

- ・シミュレーション教育指導者委員会の取組

シミュレーション教育シナリオ（39 シナリオ）の情報を機構内で共有化

- ・看護師特定行為研修の支援

研修センター長（信州医療センターの特定行為研修管理委員会の委員長）が、特定行為指定研修機関（伊那中央病院）の実技試験（OSCE）を見学し、実習病院の指導者と情報共有

- ・全職員を対象とした研修の実施

研修内容を充実させ、職員の知識・技術・資質を向上。なお、新型コロナウイルス感染防止のため一部をオンラインで実施

区 分	件 数	参加者数
研修（課程別・選択・専門）	16 件	579 人
うちオンライン実施	14 件	444 人

- ・新卒事務職員研修の充実

新卒事務職員の配属先病院において、3 人が多職種体験研修を実施

- ・シミュレーション研修をより充実

研修名	開催時期	参加者数
シナリオブラッシュアップ講座（オンライン研修）	3 月	30 人(機構内外)
スキルアップシリーズ①②（テレビ会議システム）	9～11 月	32 人（機構内）

ウ 県内医療技術者の技術水準向上に係る取組

ホームページを活用し、スキルスラボ等の利用を促進

【スキルスラボ及びシミュレータ使用実績】

区 分		実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
スキルスラボ	使用回数	417 回	—	—	337 回	80 回
	利用者数	2,352 人	—	—	3,064 人	△712 人
シミュレータ	使用回数	395 回	—	—	306 回	89 回
	利用者数	2,087 人	—	—	2,353 人	△266 人

エ 「令和元年度長野県立病院機構年報」の発行

- ・県立病院が担う医療や各種データに加え、第 1 期、第 2 期中期計画期間の統計データを併せて掲載し、資料としての利用価値を向上

オ 新たな人事評価制度の試行的導入

- ・前年度の検討を踏まえ、職員の人材育成を目的とした新たな人事評価制度を試行的に導入

カ 制度及び具体的な対応の周知により、働き方改革を推進

- ・特に「時間外労働の上限規制」「年 5 日の年休取得」「出退勤の適正管理」の 3 点について、確実な取組を推進
- ・新勤怠管理システムによる時間外勤務及び休暇の適時適正な管理を実施

【年次休暇取得状況】（対象期間：令和 2 年 1 月 1 日～令和 2 年 12 月 31 日）

取得日数	医 師	看護職	医技・介護	事務職等	全 体
5 日未満	21.7%	4.4%	3.9%	2.3%	5.8%
5 日以上	78.3%	95.6%	96.1%	97.7%	94.2%

※年の中で中途で退職した職員を含む。

キ 職員相談体制の強化等により、職員の働き方を支援

- ・保健師による巡回健康相談、ストレスチェック等を実施し、職員の心身の健康の保持増進、安全かつ快適な職場環境づくりを推進

項 目	実施回数	参加者数等
新規採用職員研修（メンタルヘルス）〔保健師〕	1 回	94 人
メンタルヘルス巡回相談（新規採用職員等対象）〔保健師〕	各所属 2 回	—
健康（メンタルを含む）巡回相談（全職員対象）〔保健師〕	各所属 2 回	—
過重労働による健康障害防止のための面接指導〔産業医〕	各所属	—
ストレスチェック（全職員対象）	1 回	1,541 人

ク 経費削減の取組

・薬品費の削減

コンサルを導入し、各病院の薬剤部長等と連携した下半期医薬品の価格交渉により、薬価差益増を実現

【薬価差益（薬価－（購入価×消費税）比較】

施設名	実 績 下半期薬価差益の計a	前年度 下半期薬価差益の計b	薬価差益増加分a-b
県立 5 病院	69,418千円	32,738千円	36,680千円

・電気料の削減

機構全体の電気供給契約について、基本料金法人割引の見直し等により下半期の電気料を削減

施設名	実 績 下半期電気料a	前年度 下半期電気料b	削減額b-a
県立 5 病院（病院本体分）	124,574千円	146,084千円	21,510千円

ケ コンプライアンス強化の取組

・コンプライアンス意識推進強化運動（7～9月）の実施及び研修会の開催により、職員の意識を向上

名 称	内 容	参加人数	備 考
コンプライアンス研修	コンプライアンス、倫理、ハラスメント	881 人	強化運動期間に実施 e ラーニング活用
医療技術部門管理職研修	コンプライアンス、コミュニケーションの向上等	15 人	

コ 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・新型コロナウイルス感染症に係る職員の服務上の取扱い（感染の場合の出勤停止など）を規定
- ・感染の危険性が高い業務に従事した職員に支給する特殊勤務手当（感染症防疫等作業手当）の特例を新設（1日につき 4,000 円以内で業務に応じた額を支給）
- ・「新型コロナウイルス感染症対策に伴う本部事務局職員在宅勤務実施要領」を制定
在宅勤務実績 6 人（延べ人数 37 人）（1 月 8 日から 3 月 31 日まで）

2－7－2 経営指標等

【損益計算書】

本部研修センター・本部事務局

（税抜、単位：千円）

科 目	R2 年度 決算 a	R2 年度 計画 b	対計画 増減 a-b	R 元年度 決算 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	37,272	45,563	△ 8,291	26,049	11,223
運営費負担金収益	27,499	41,912	△ 14,413	16,412	11,087
その他経常収益	9,773	3,651	6,122	9,637	136

経常費用 (イ)	356,969	376,566	△ 19,597	343,853	13,116
一般管理費	347,465	372,186	△ 24,721	340,197	7,268
給与費	267,887	282,761	△ 14,874	280,464	△ 12,577
材料費	0	0	0	0	0
減価償却費	30,875	30,345	530	21,272	9,603
経費	46,971	46,677	294	34,105	12,866
研究研修費	1,732	12,403	△ 10,671	4,356	△ 2,624
財務費用	219	1,019	△ 800	147	72
その他経常費用	9,285	3,361	5,924	3,509	5,776
経常損益 (ア-イ)	△ 319,697	△ 331,003	11,306	△ 317,804	△ 1,893
臨時損益 (ウ)	△ 13	0	△ 13	0	△ 13
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△ 319,710	△ 331,003	11,293	△ 317,804	△ 1,906
コメント	◆経常収益 ・運営費負担金収入が減少 ◆経常費用 ・給与費については、手当等の減により減少 ・研究研修費については、新型コロナウイルス感染症の影響により、旅費及び会場使用料等が不要になったため、減少				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

<参考> 数値目標に対する達成状況及び主な経営指標

主要指標（対年度計画比）

（単位：％、日）

項 目			R 2 年度 実績 (a)	R 2 年度 計画 (b)	対計画比 (a)－(b)	備 考
医 業 収 益 指 標	病 床 利 用 率	信州医療センター	68.7	82.0	△ 13.3	H26.8～運用病床数226床、H30.12～同215床（一般稼働病床数264－地域包括49）に基づき算出
		こころの医療センター駒ヶ根	72.8	80.0	△ 7.2	H23.1～新病棟129床に基づき算出
		阿南病院	54.3	70.0	△ 15.7	H25.6～新病棟85床、H31.1～運用病床数77床に基づき算出
		木曽病院	61.2	74.0	△ 12.8	H25.4～運用病床数186床、H30.4～同159床、R2.3～151床に基づき算出
		こども病院	69.2	76.8	△ 7.6	H25.10～運用病床数180床に基づき算出
	平 均 在 院 日 数	信州医療センター	13.8	14.8	△ 1.0	
		こころの医療センター駒ヶ根	67.5	71.7	△ 4.2	
		阿南病院	18.3	20.9	△ 2.6	
		木曽病院	15.9	16.5	△ 0.6	
		こども病院	12.8	14.1	△ 1.3	
収 支 指 標	経常収支比率		103.8	100.3	3.5	
	医 業 収 支 比 率	信州医療センター	83.6	85.8	△ 2.2	
		こころの医療センター駒ヶ根	63.8	62.1	1.7	
		阿南病院	53.2	51.2	2.0	
		木曽病院	75.5	77.3	△ 1.8	
		こども病院	76.1	77.1	△ 1.0	
医 業 費 用 構 造 指 標	職 員 給 与 比 率	信州医療センター	63.2	59.9	3.3	
		こころの医療センター駒ヶ根	108.7	103.2	5.5	
		阿南病院	111.6	107.4	4.2	
		木曽病院	78.9	75.2	3.7	
		こども病院	76.4	72.8	3.6	
	医 療 材 料 費 比 率	信州医療センター	28.9	25.6	3.3	
		こころの医療センター駒ヶ根	6.4	6.1	0.3	
		阿南病院	16.4	16.3	0.1	
		木曽病院	22.9	22.4	0.5	
		こども病院	23.4	20.9	2.5	

【主要指標の算定方式】

- 病床利用率 年間延入院患者数 ÷ 年間延病床数 × 100
- 平均在院日数 在院患者延日数 ÷ { (新入院患者 + 新退院患者数) ÷ 2 }
- 経常収支比率 経常収益 ÷ 経常費用 × 100
- 医療収支比率 医療収益 ÷ 医療費用 × 100
- 職員給与比率 職員給与 ÷ 医療収益 × 100
- 医療材料費比率 医療材料費（薬品費 + 診療材料費） ÷ 医療収益 × 100

* 経常収支比率は機構全体のもの

* 職員給与比率の（b）欄は前年度実績

指標：延患者数

(単位：人)

病 院		区 分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R 2 年度
信 州	入 院	計 画	93,939	89,937	91,051	90,261	90,432
		実 績	86,214	90,537	90,876	88,977	76,307
	外 来	計 画	127,347	131,201	121,155	123,535	117,462
		実 績	121,387	122,540	120,801	120,749	111,308
駒ヶ根	入 院	計 画	37,595	37,668	37,668	38,228	38,228
		実 績	36,431	37,848	37,515	37,400	34,779
	外 来	計 画	43,380	45,927	41,310	37,200	37,510
		実 績	41,095	41,024	40,051	41,189	39,037
阿 南	入 院	計 画	17,840	22,000	21,500	21,300	15,980
		実 績	19,265	20,818	19,272	17,053	14,680
	外 来	計 画	46,680	52,900	48,988	49,254	48,080
		実 績	48,718	48,562	47,667	46,882	47,565
木 曽	入 院	計 画	53,036	51,538	46,107	49,037	47,473
		実 績	50,713	46,554	48,709	43,681	40,782
	外 来	計 画	130,053	132,873	129,256	125,475	124,233
		実 績	131,909	128,076	127,418	125,512	109,849
こども	入 院	計 画	55,767	53,902	52,797	54,675	54,573
		実 績	54,060	53,560	55,723	52,647	49,519
	外 来	計 画	59,867	61,623	63,113	66,557	69,638
		実 績	61,138	62,842	64,946	66,776	64,261

指標：1人1日当たり診療単価

(単位：円)

病 院	区 分		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R 2 年度
信 州	入 院	計 画	39,487	41,761	42,204	42,311	42,964
		実 績	41,868	40,799	41,785	43,532	49,596
	外 来	計 画	11,051	11,057	12,800	12,800	17,300
		実 績	11,472	12,359	13,042	14,887	16,096
駒ヶ根	入 院	計 画	28,917	28,870	27,150	27,260	27,260
		実 績	26,821	27,120	27,093	27,432	28,258
	外 来	計 画	6,363	6,380	6,545	6,539	6,750
		実 績	6,234	6,576	6,747	6,986	7,029
阿 南	入 院	計 画	28,383	27,050	29,455	28,357	31,613
		実 績	27,734	27,568	28,373	28,291	29,671
	外 来	計 画	8,011	7,218	6,821	6,731	8,125
		実 績	7,170	7,106	6,910	7,066	8,972
木 曽	入 院	計 画	36,861	35,174	37,217	35,659	35,272
		実 績	34,771	35,398	35,594	37,189	36,326
	外 来	計 画	10,419	10,588	10,965	10,654	11,500
		実 績	11,582	10,891	10,601	10,040	11,664
こども	入 院	計 画	89,876	96,820	96,367	97,411	101,000
		実 績	94,721	95,627	96,687	102,667	105,847
	外 来	計 画	11,999	11,698	12,000	12,700	13,230
		実 績	12,267	12,532	12,735	12,681	13,081

指標：医療材料費／医業収益比率

(単位：％)

病 院	区 分	H 28年度	H 29年度	H 30年度	R元年度	R 2 年度
信 州	計 画	22.6	24.0	25.2	26.8	25.6
	実 績	23.4	23.9	24.3	27.4	28.9
駒ヶ根	計 画	5.9	5.3	9.3	6.1	6.1
	実 績	5.5	5.9	5.7	5.9	6.4
阿 南	計 画	17.7	17.7	16.1	16.6	16.3
	実 績	15.2	15.3	15.5	16.1	16.4
木 曽	計 画	25.3	23.3	23.5	23.0	22.4
	実 績	26.4	23.9	22.4	21.4	22.9
こども	計 画	20.0	20.0	20.0	20.0	20.9
	実 績	21.1	20.6	21.3	21.9	23.4

指標：平均在院日数

(単位：日)

病 院	区 分	H 28年度	H 29年度	H 30年度	R元年度	R 2 年度
信 州	計 画	—	—	—	—	14.8
	実 績	15.2	15.7	14.8	15.4	13.8
駒ヶ根	計 画	—	—	—	—	71.7
	実 績	65.7	67.6	69.3	72.7	67.5
阿 南	計 画	—	—	—	—	20.9
	実 績	19.1	19.6	20.4	19.9	18.3
木 曽	計 画	—	—	—	—	16.5
	実 績	17.5	17.6	16.5	17.9	15.9
こども	計 画	—	—	—	—	14.1
	実 績	14.7	13.5	14.1	12.4	12.8

指標：病床利用率（運用病床）

(単位：％)

病 院	区 分	H 28年度	H 29年度	H 30年度	R元年度	R 2 年度
信 州	計 画	81.8	81.5	80.9	83.8	82.0
	実 績	76.0	79.3	81.2	79.9	68.7
駒ヶ根	計 画	79.8	80.0	80.0	80.0	80.0
	実 績	77.4	79.2	78.5	78.1	72.8
阿 南	計 画	60.0	67.7	70.0	70.0	70.0
	実 績	58.7	63.7	60.4	57.4	54.3
木 曽	計 画	78.1	72.3	72.6	78.6	74.0
	実 績	70.7	64.3	78.1	69.4	61.2
こども	計 画	74.3	75.8	73.4	77.5	76.8
	実 績	76.0	74.6	78.0	73.1	69.2

- ・ 信州：H26.8～運用病床数226床、H30.12～同215床（一般稼働数264－地域包括49）に基づき算出
- ・ 駒ヶ根：H23.1～新病棟129床
- ・ 阿南：H25.6～新病棟85床、H31.1～運用病床数77床に基づき算出
- ・ 木曽：H25.4～運用病床数186床、H30.4～同154床、R2.3～151床に基づき算出
- ・ こども：H25.10～運用病床数180床に基づき算出

指標：在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）

（単位：件）

病 院	区 分	H 28年度	H 29年度	H 30年度	R元年度	R 2 年度
信 州	計 画	5,151	5,360	6,660	7,460	8,260
	実 績	6,697	7,029	7,588	8,829	9,147
駒ヶ根	計 画	1,750	1,750	1,750	1,750	1,920
	実 績	1,880	1,658	1,681	1,982	1,932
阿 南	計 画	2,500	2,500	2,200	2,200	3,108
	実 績	2,198	2,175	2,293	2,104	4,119
木 曽	計 画	5,150	5,000	4,300	4,850	5,000
	実 績	5,111	4,523	4,801	5,433	5,561
こども	計 画	－	－	－	－	180
	実 績	－	－	－	－	54

指標：ジェネリック医薬品使用割合（院内）

（単位：％）

病 院	区 分	H 28年度	H 29年度	H 30年度	R元年度	R 2 年度
信 州	計 画	70.0	80.0	80.0	90.0	90.0
	実 績	83.6	86.8	90.0	91.7	90.5
駒ヶ根	計 画	－	－	－	－	85.0
	実 績	－	－	－	－	90.1
阿 南	計 画	60.0	70.0	80.0	85.0	88.0
	実 績	64.4	78.4	86.2	86.7	86.0
木 曽	計 画	70.0	70.0	80.0	85.0	85.0
	実 績	77.4	80.7	82.4	81.9	84.9
こども	計 画	70.0	80.0	85.0	80.0	85.0
	実 績	78.7	87.0	86.5	88.6	89.5

指標：紹介率及び逆紹介率

(単位：％)

病 院	区 分		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
信 州	紹 介 率	計 画	61.4	62.5	63.7	59.4	59.7
		実 績	57.9	59.4	59.6	66.2	60.8
	逆紹介率	計 画	15.8	16.0	18.0	16.7	16.5
		実 績	16.5	15.7	15.4	13.0	17.6
駒ヶ根	紹 介 率	計 画	－	－	－	－	52.0
		実 績	－	－	－	－	52.5
	逆紹介率	計 画	－	－	－	－	36.0
		実 績	－	－	－	－	48.1
阿 南	紹 介 率	計 画	14.0	20.0	21.0	20.0	21.5
		実 績	19.5	18.8	20.3	22.5	31.2
	逆紹介率	計 画	12.0	15.0	15.0	15.0	13.5
		実 績	13.3	14.1	13.0	15.3	17.6
木 曽	紹 介 率	計 画	21.0	21.0	21.0	25.0	26.0
		実 績	20.2	24.6	27.0	28.1	20.1
	逆紹介率	計 画	10.0	14.0	14.0	17.0	17.0
		実 績	13.1	17.1	18.1	21.5	28.0
こども	紹 介 率	計 画	－	65.0	70.0	77.0	77.0
		実 績	－	77.0	73.2	75.4	70.5
	逆紹介率	計 画	－	40.0	90.0	80.0	73.9
		実 績	－	80.7	73.9	75.1	80.6

指標：分娩件数

(単位：件)

病 院	区分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
信 州	計 画	－	－	－	－	250
	実 績	82	123	186	230	223
木 曽	計 画	－	－	－	－	108
	実 績	140	115	105	103	72
こども	計 画	－	－	－	－	300
	実 績	273	290	295	331	292

指標：経常収支比率（病院機構全体）

達成目標：経常収支比率100%以上

（単位：百万円、%）

病 院	区 分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
経常収益	計 画	23,192	23,540	23,453	23,720	24,525
	実 績	23,095	23,201	23,763	23,863	25,421
経常費用	計 画	23,180	23,508	23,432	23,703	24,458
	実 績	23,358	23,324	23,346	24,006	24,501
経常損益	計 画	12	32	21	17	67
	実 績	△ 263	△ 123	417	△ 143	920
経常収支比率	計 画	103.2	100.1	100.1	100.1	100.3
	実 績	98.9	99.5	101.8	99.4	103.8

※係数は、端数をそれぞれ四捨五入しており、内訳と合計が一致しない箇所がある。

指標：医業収支比率

（単位：%）

病 院	区 分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
信 州	計 画	—	—	—	—	85.8
	実 績	84.9	85.5	88.4	87.0	83.6
駒ヶ根	計 画	—	—	—	—	62.1
	実 績	65.4	68.8	66.6	67.8	63.8
阿 南	計 画	—	—	—	—	51.2
	実 績	59.4	60.7	58.7	55.2	53.2
木 曾	計 画	—	—	—	—	77.3
	実 績	79.5	77.3	79.8	77.7	75.5
こども	計 画	—	—	—	—	77.1
	実 績	79.3	80.0	82.7	80.1	76.1

新型コロナウイルス感染症に係る実績

・感染者等受入数

(単位：人)

病 院	感染者		疑い患者		計	
	受入人数	延べ人数	受入人数	延べ人数	受入人数	延べ人数
信 州	195	2,181	21	48	216	2,229
駒ヶ根	0	0	15	71	15	71
阿 南	56	368	0	0	56	368
木 曽	33	327	5	18	38	345
こども	0	0	23	36	23	36
計	284	2,876	64	173	348	3,049

・検査件数

(単位：件)

病 院	PCR検査	LAMP法	抗原検査 (定性)	抗原検査 (定量)	計
信 州	341	0	1,074	206	1,621
駒ヶ根	0	0	9	0	9
阿 南	17	203	28	0	248
木 曽	143	181	42	1,561	1,927
こども	52	0	0	0	52
計	553	384	1,153	1,767	3,857